

平成21年度 IAQG/JAQQ 活動説明会 アジェンダ

名古屋会場 平成 21 年 7 月 15 日(水) 10:30～16:45 名古屋ミッドランドホール
東京会場 平成 21 年 7 月 17 日(金) 10:30～16:45 日本自転車会館 ホール

時 間	内 容	発表者
10:30 (10 分)	開会挨拶	SJAC 常務理事 宮部 俊一
10:40 (40 分)	IAQG/APAQG について IAQG/APAQG 活動の現況を説明	IAQG セクターリーダー 川崎重工業(株) 北森 直樹
11:20 (40 分)	JAQQ 活動概要 JAQQ 活動(含、各ワーキンググループ活動)の現況を説明	JAQQ 幹事長 富士重工業(株) 増田 基根 各 WG 主査
12:00 ～13:15	昼食	
13:15 (45 分)	JIS Q 9100 航空宇宙 品質マネジメントシステム認証制度について JRMC の活動状況及び OASIS 登録の注意点を説明	JRMC 議長 三菱重工業(株) 有田 智充 JRMC メンバー (株)IHI 西尾 珠樹
14:00 (40 分)	SCMH 活動について SCMH(サプライチェーンマネジメントハンドブック)の活動展開状況 と公開中の e-SCMH の紹介及びアクセス方法について説明	JAQQ SCMH WG 主査 富士重工業(株) 小森 秀司 JAQQ SCMH WG 副主査 三菱重工業(株) 岩垂 素子
14:40～ 14:50	休憩(10 分)	
14:50 (75 分)	JIS Q 9100:2009 改正版の概要 JIS Q 9100:2009「品質マネジメントシステムー航空、宇宙及び 防衛分野の組織に対する要求事項」の改正概要を説明	JAQQ規格検討 WG 主査 三菱重工業(株) 河本 正博
16:05 (30 分)	Nadcap について Nadcap の概要、内外受審状況、Nadcap 会議などを紹介	PRI-Nadcap 日本事務所 所長 藤澤 健一 殿
16:35 (10 分)	全体質疑応答	
16:45	閉 会	

説明時間は質疑応答を含みます。

平成21年度 IAQG/JAQQ 活動説明会 配布資料

目 次

説明資料	頁
IAQG/APAQG について	5
JAQG 活動概要	17
JIS Q 9100 航空宇宙 品質マネジメントシステム認証制度について	31
SCMH 活動について	43
JIS Q 9100:2009 改正版の概要	59
Nadcap について	71
参考資料	
平成 21年度 JAQG 事業計画	87
JAQG 設置運用規則 ほか	95
JAQG 会員専用ウェブサイトの使い方	103
別 紙	
満足度調査 アンケート用紙	

IAQG/APAQGについて

社団法人 日本航空宇宙工業会
航空宇宙品質センター
(JAQG)

平成20年7月15日：名古屋会場(ミッドランドホール)

平成20年7月17日：東京会場(日本自転車会館ホール)

1

IAQG(国際航空宇宙品質グループ) 誕生の経緯 (1)



1. 米国の状況(1990年代初め)

- ・MIL Q 9858Aの廃止に伴いBoeing,GE等の主要11社は1995年にSAE (Society of Automotive Engineers)の下にAAQG(American Aerospace Quality Group)を設置、品質システム規格(AS9000)を作成・発行
- ・その後も、業界での品質規格の標準化等を進めると共に、米国外のメンバー(Bombardier,Embraer)も参画し、名称をAAQG(Americas Aerospace Quality Group)に変更

2. 欧州の状況

- ・EU内の各国工業会の連合組織であるAECMA(European Association of Aerospace Industries)の下で、1996年よりEAQG(European Aerospace Quality Group)がEU共通の品質システム規格(EN9000シリーズ)等の作成及びAECMA-EASE(European Aerospace Supplier Evaluation)を設置、品質審査の共有化等の活動を推進

IAQG(国際航空宇宙品質グループ) 誕生の経緯 (2)



3. 航空宇宙規格の制定

欧米の動きにより、全世界的な航空宇宙版の品質システム規格制定の気運が高まり、ISO TC20/WG11で検討開始される。(1997年頃)



約2年かけて、航空宇宙版ISO9001である現在のAS9100/EN9100/JISQ9100を作成。(ISO9001:1994年度版→2000年度版への移行に伴い改定)

4. 世界への広がり

ロールスロイス、GEなどエンジンメーカーが、制定された品質システム規格の展開と具体的実施要領の標準化を業界主導で推進することを全世界の主要航空機メーカーに呼びかける。(1998年12月)



ボーイングやエアバスも次々と参加を表明し、IAQGが組織される。
日本でもIHIが窓口となり、SJAC内で対応を検討した結果、参加することを表明し、現在のJAQG(航空宇宙品質センター)設立に至る。

3

IAQGの目的及び目標



目的:

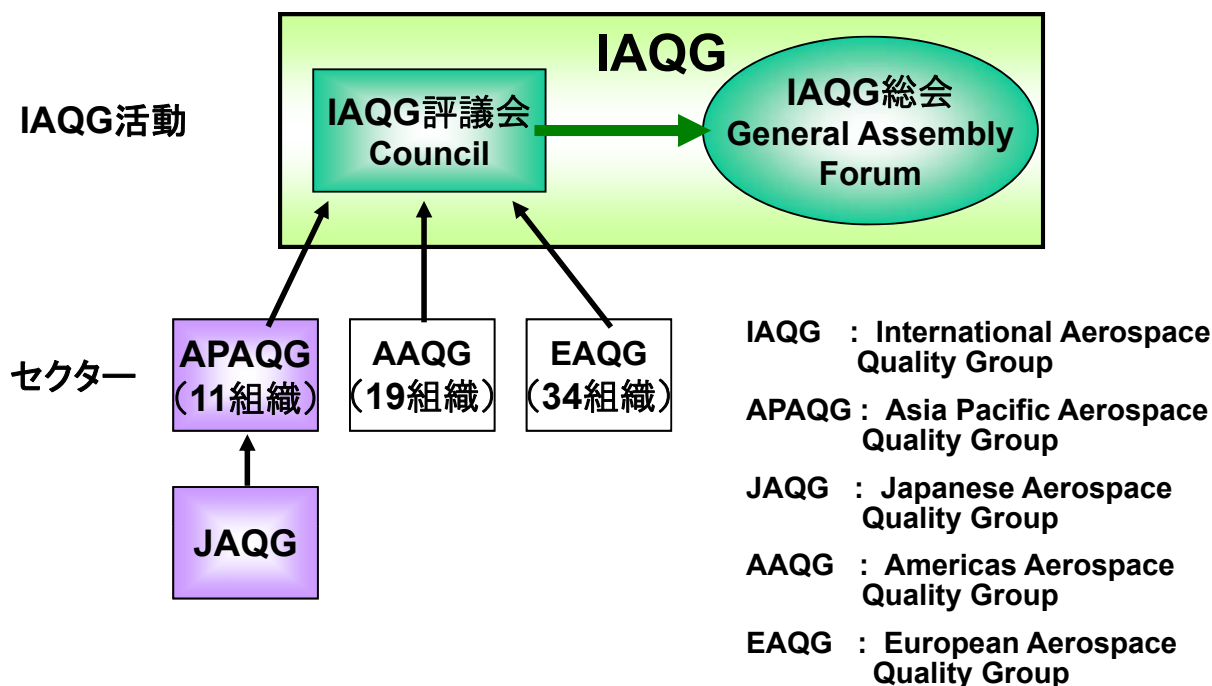
世界の航空宇宙会社が、互いの信頼に基づいて強力な協力体制を構築・維持することにより、価値創造の流れの全段階において品質の著しい改善とコスト削減を実現するイニシアティブを推進する

目標:

製品 ライフサイクルを通じて、契約納期に契約品質の製品を納入
要員、プロセスおよびツールにより継続的に改善する(OTOQD)



IAQG 組織



5

IAQGメンバー会社



Europe

- Agusta Westland
- Airbus
- Alenia
- Avio
- BAE Systems
- Dassault Aviation
- EADS Corporate
- EADS-CASA
- EADS Military
- ELBIT Systems
- Eurocopter
- GE Aviation Systems
- HEGAN
- Hispano-Suiza
- Israel Aircraft Ind.
- Liebherr-Aerospace
- MBDA
- Meggit
- Messier-Dowty
- MTU Aero Engines
- PFW
- RAFAEL
- Rolls-Royce
- SAAB Aerospace
- SAFRAN
- SAGEM
- SNECMA
- Sonaca
- Stork Fokker
- Sukhoi
- THALES Avionics
- Turbomeca
- Volvo Aero
- Zodiac Aerospace
- ASD
- (地区代表業界団体)

Americas

- ATK
- Ball aerospace
- Boeing
- Bombardier Aerospace
- Embraer
- GE Aviation
- Goodrich Corporation
- Gulfstream
- Honeywell Aerospace
- Lockheed Martin
- Northrop Grumman
- Orbital
- Parker Aerospace
- Raytheon
- Rockwell Collins
- Rolls-Royce
- Textron-Bell Helicopter
- United Technologies Corp.
- Vought
- PRI (Performance Review Institute)
- SAE(地区代表業界団体)

Asia-Pacific

- AIDC (台湾)
- AVIC (中国)
- Hawker de Havilland (オーストラリア)
- Indonesian Aerospace (インドネシア)
- KAI (韓国)
- Korean Air (韓国)
- IHI
- 川崎重工業
- 新明和工業
- 富士重工業
- 三菱重工業
- 航空宇宙工業会 SJAC (地区代表業界団体)

●: IAQG 投票メンバー
セクターリーダー

7

6

目標:

“サプライチェーン全体での単一の管理システム”

- 共通品質規格及び要求事項の確立
- 共通監視を通じたリスクと無駄の最小限化
- 継続的改善の共通プロセスの確立
- 行政当局を含む主要ステークホルダーの同意獲得

目的達成のための 活動基本方針:



7

IAQG活動概要 改善の戦略

• 3つの改善項目とその活動内容

– Requirements (規格要求):

- ISO9001の改訂に併せた9100の見直し（2009年4月改訂版発行）
- ソフトウェアのQMS規格策定活動を開始

– Product and Supply Chain Improvement

(製品とサプライチェーンの改善):

- SCMH(サプライチェーンマネジメントハンドブック)を作成、IAQG Web上で公開中
- 世界中のベストプラクティスを盛込んだ、どの階層でも使えるサプライや管理プロセスをガイドライン化

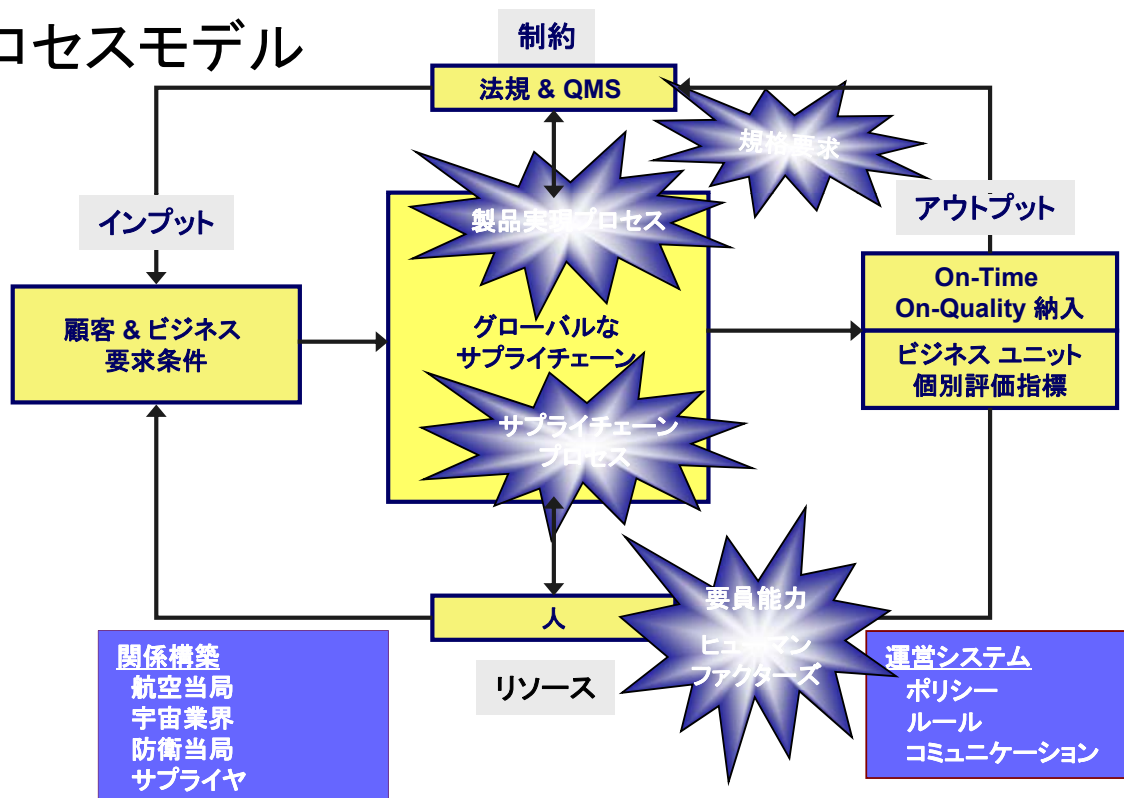
– People Capability (要員能力):

- 英語での業界用語を各国言語に置き換える辞書作成
- 力量管理の標準プロセスを作成
- ヒューマンファクターズに関する自己診断ツールを開発

IAQG活動概要 改善の戦略(続き)

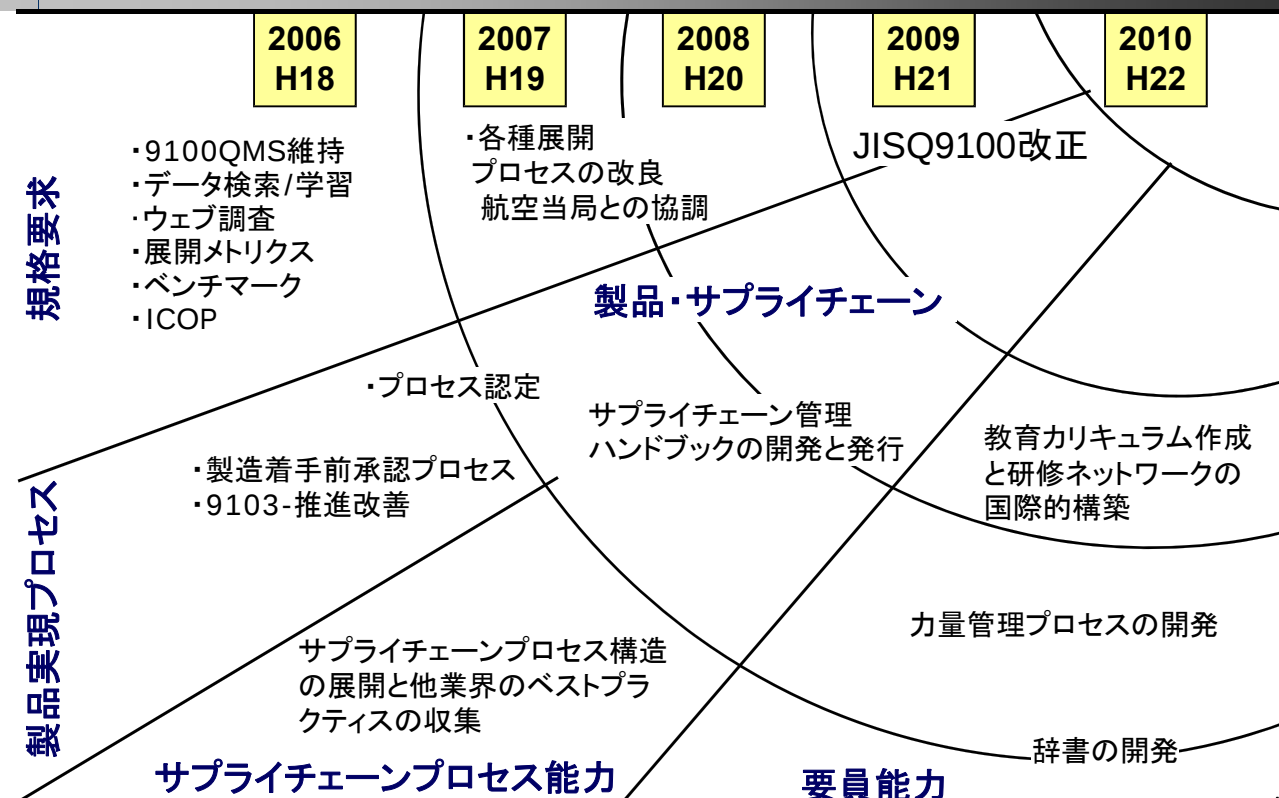


・プロセスモデル



9

IAQG活動概要 改善の戦略(続き)



9

10

IAQGで制定した規格

規格番号	名称	米国セクター	アジア・パシフィックセクター(JAQQ)	欧州セクター	その他言語規格
9100	Quality Management Systems – Aerospace – Requirements	AS9100C	JIS Q 9100 : 2009	EN9100	Portugese Korean Chinese Hebrew Russian
9101	Quality Management Systems Assessment	AS9101C	SJAC9101C	EN9101	
9102	Aerospace First Article Inspection Requirement	AS9102A	SJAC9102A	EN9102	
9103	Variation Management of Key Characteristics	AS9103	SJAC9103	EN9103	
9104	Requirements for Aerospace Quality Management System Certification/Registrations Programs	AS9104A	SJAC9104 pre	EN9104	
9107	Direct Delivery Authorization Guidance for Aerospace Companies	ARP9107		EN9107	
9110	Quality Maintenance Systems – Aerospace – Requirements for Maintenance Organizations	AS9110		EN9110	

IAQGで制定した規格

規格番号	名称	米国セクター	アジア・パシフィックセクター(JAQQ)	欧州セクター	その他言語規格
9111	Quality Management System Assessment for Maintenance Organizations (Based on ISO9001:2000)	AS9111		EN9111	
9114	Direct Ship Guidance for Aerospace Companies	ARP9114		EN9114	
9120	Quality Management Systems – Aerospace – Requirements for Stockist Distributors	AS9120		EN9120	
9121	Aerospace Series Quality Systems Quality System Assessment Applicable to Stockist Distributors	AS9121		EN9121	
9131	Quality Systems – Non-Conformance Documentations	AS9131	SJAC9131	EN9131	
9132	Data Matrix Quality Requirements for Parts Marking	AS9132A	SJAC9132	EN9132	
9133	Qualification Procedure for Aerospace Standard Parts	AS9133		EN9133	
9134	Supply Chain Risk Management Guidelines	ARP9134		EN9134	
9162	Aerospace Operator Self-Verification Programs	ARP9162	SJAC9162	EN9162	



IAQG活動概要 認証制度の監視



背景

- ・ 1998年以降、IAQGが事実上、世界の航空宇宙業界での品質保証活動に関する中心的組織となった。
- ・ ボーイング、エアバス等が相次ぎAS9100/EN9100の適用を決定（NASAもサプライヤーに対する品質保証要求として採用）
- ・ 日本では防衛省（当時防衛庁）が調達品の品質保証要求にJIS Q 9100を採用
- ・ JIS Q 9100の第三者認証制度適用の検討開始。その後、認証制度に対する監視が必要となり、その制度確立が必須となる。
(認証制度の運用に業界が直接的に関与するべきとのFAA意見がきっかけ)

日本では・・・

- ・ 日本の業界としても組織的及びリソース的にも強化するため、JAQGを会員79社で2001年5月に設立。
- ・ JAQG内に9100認証制度を監視するためのJPMC（航空宇宙審査登録管理委員会）を設置して運用を開始。

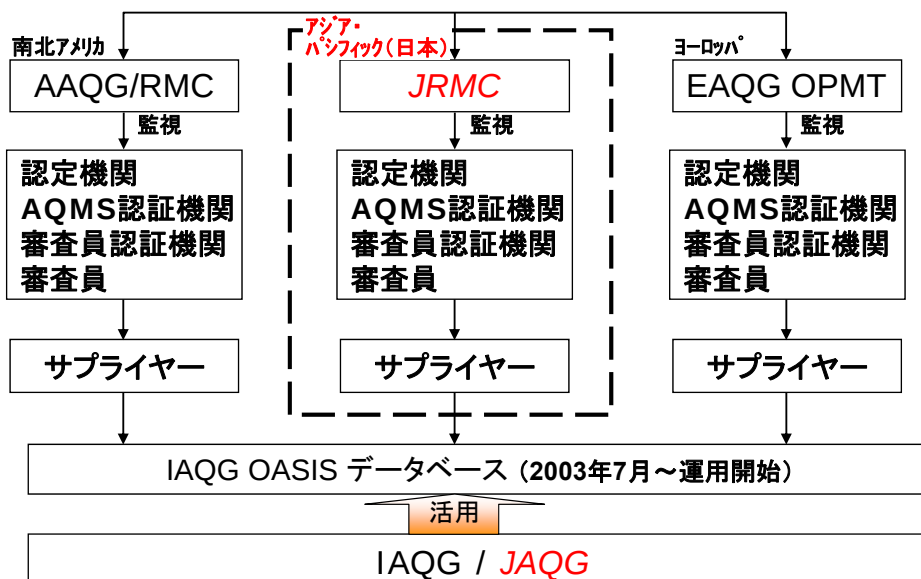
13

IAQG活動概要 認証制度の監視（続き）



航空宇宙品質マネジメントシステム国際審査登録基準 IAQG 9104
→ AS9014(米国) / EN9104(欧州) / **SJAC 9010 (日本)**

IAQG OPMTによる相互監視



OPMT: Other Party Management Team



• **航空当局**

- ICOP (Industry Controlled Other Party) プログラムを航空当局側に認知してもらう活動を推進中
- 若干の局側からの条件提示はあるものの、認知の方向で推移

• **宇宙業界**

- IAQG・JAQGにスペースフォーラムを設置し、宇宙関係者により活動推進中。また、APAQGでもスペースフォーラムを設置して活動中。今後も継続していく
- 次期9100改訂に対し、宇宙業界として意見提案実施しており、改訂作業にもメンバーが参加

• **防衛当局**

- NATOとの品質管理要求整合を中心に活動中
- 日本国内でも防衛省殿と情報交換を適宜実施中

IAQG活動概要

• **IAQG 新プレジデント就任**

- Lee Tait 女史 (Bell Helicopter)
 - 2009年4月フェニックス会議で正式に承認

• **IAQG Five Year Visionを制定**

- 今後5年間のIAQG活動推進のための目標
(2008年10月の横浜会議で議決)
- 目標達成のためのアクションの優先順位づけを行い各WGへ展開されると共にAPAQG/JAQG内でも対応を検討

• **セクターリーダー変更**

- APAQG リーダー: 筒井俊一 (IHI) ⇒ 北森直樹 (KHI)
サブリーダー: 北森直樹 (KHI) ⇒ 増田基根 (FHI)

• **会議予定**

- 次回IAQG会議 2009年10月13日-16日、ミュンヘン(ドイツ)

IAQG 5 year Vision (今後5年間の活動目標)

(2008年10月IAQG横浜会議にて決議)



- **Product and Services Quality and Delivery will have improved 20% per year throughout the product lifecycle**
製品ライフサイクルの全体を通じて製品・サービスの品質及び納期(に関する指標)を毎年20%改善する。
- **Robust processes achieved throughout the Supply Chain (SCMH supplier maturity assesment level 3 or better)**
サプライチェーンのすみからすみまでの強固なプロセス構築を達成する。
(サプライチェーンマネジメントハンドブックにおける成熟評価レベル3以上)
- **IAQG Quality management system certification program robust, recognised and valued**
IAQG品質マネジメントシステムの認証プログラムが強固で社会に認知された、価値あるものにする。
- **90% of the industry supply chain certified to IAQG Quality Management System Standards**
産業界のサプライチェーンの90%がIAQG品質マネジメントシステム規格の認証を取得する。

注:和訳は参考

17

APAQG活動状況



1. メンバー会社 (事務局: SJAC)

14組織

(H21年4月現在)

IAQG/APAQGメンバー

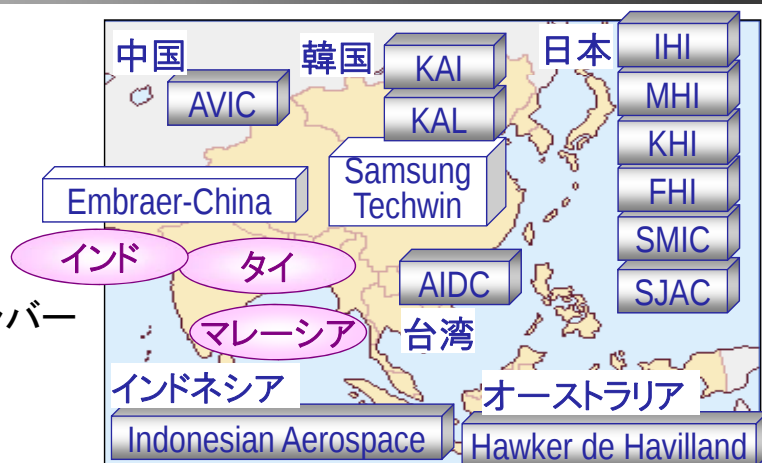
APAQGメンバー

新規メンバー候補

2. APAQG会議

第1回 2002年7月 東京(日本)
第2回 2003年3月 東京(日本)
第3回 2003年9月 西安(中国)
第4回 2004年9月 名古屋(日本)
第5回 2005年3月 晋州(韓国)
第6回 2005年8月 東京(日本)

第7回 2006年2月 上海(中国)
第8回 2006年8月 バンツン(インドネシア)
第9回 2007年3月 三亜(中国)
第10回 2007年8月 札幌(日本)
第11回 2008年2月 アモイ(中国)
第12回 2009年3月 釜山(韓国)



3. 最近のAPAQG会議での中心議題

- APAQGリーダーシップ会議 …各国のリーダーが集まってAPAQGの将来有るべき姿の議論を始めた。(アモイ会議)
- APAQG ホームページ …JAQGホームページ内にAPAQGサイトを設置して運用中
- APAQG RMC …準備チーム (日本、中国、韓国) 設置済み 中国のスキーム(CRMC)開発をJAQG (JRMCメンバー) が支援。
自国の9100審査員育成に向けて研修機関等の準備を推進。中国国内事情により一時中断していたが再開の予定
- スペースフォーラム …2008年2月(アモイ)と2009年3月(釜山)にて中国の宇宙機関を交えた会議を開催。
APAQG及びIAQG活動への参加呼びかけを行なうとともに今後も意見交換を継続する。

19

APAQG メンバー



第12回釜山会議

Thank you !

JAQG活動概要

社団法人 日本航空宇宙工業会
航空宇宙品質センター
(JAQG)

平成21年7月15日：名古屋会場(ミッドランドホール)
平成21年7月17日：東京会場(日本自転車会館 ホール)

1

目次

- JAQGの意義
- JAQGの組織
- JAQGの役割分担
- JAQG活動状況(各WG活動状況)
- H21年度 JAQG活動の主要課題

JAQGの主な活動:

- ① 9100認証制度の運用と監視
- ② 国際品質規格の普及(翻訳出版)
- ③ 業界意見のIAQG活動への反映
- ④ 世界のプライム企業の動向把握

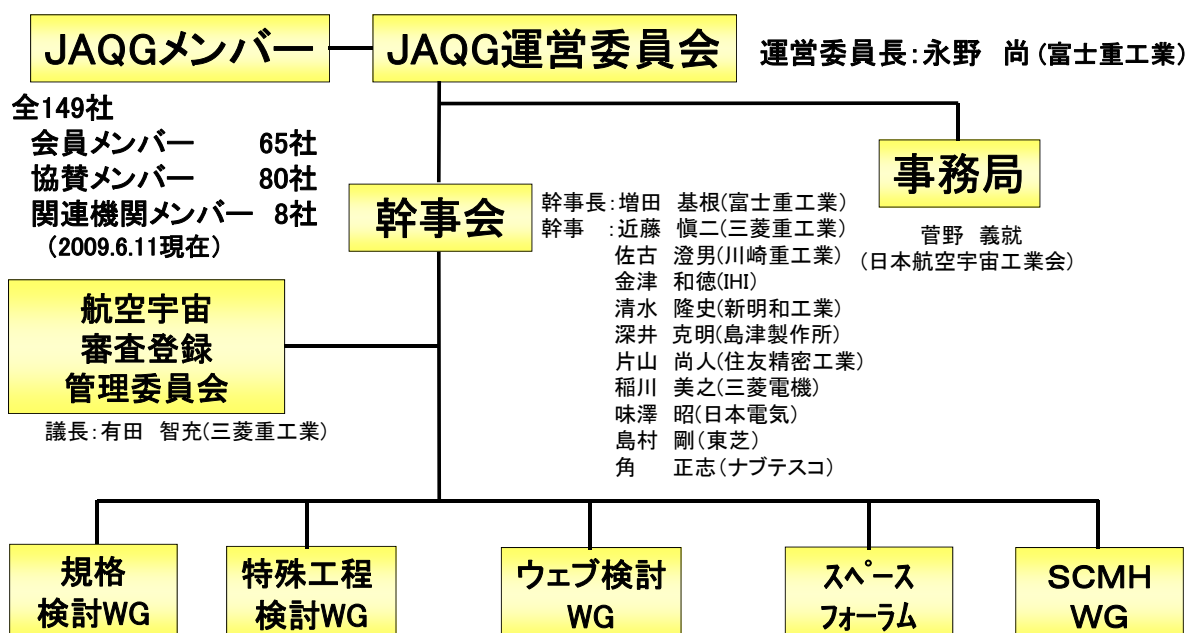
国際的な品質先端情報の共有
(国際品質規格、JAQG/IAQG Web情報、活動報告会、JAQG への意見/ 問合せ)

9100認証制度の維持
(顧客の監査省略、顧客特有の要求削減)

**品質の向上
コストの削減**

3

JAQG組織



H21年度開始
新規WG

JAQG : Japan Aerospace Quality Group(航空宇宙品質センター)
WG : ワーキング・グループ

JAQG活動の役割分担



会社名	JAQG関連活動						
	幹事会	JRMC	ワーキンググループ				
			規格	特殊工程	ウェブ	SF	SCMH
三菱重工業	○	◎	◎	○	○	◎	○(副)
川崎重工業	○	○	○(副)	◎	○	○	○
IHI	○	○	○	○	○	○	○
富士重工業	◎	○	○	○	○	○	◎
新明和工業	○		○	○	○		○
島津製作所	○		○	○	○		○
住友精密工業	○		○	○	○	○	○
三菱電機	○		○	○		○(副)	○
NEC	○		○			○	○
東芝	○		○				○
ナブテスコ	○		○	○	○		○
JAQG事務局(SJAC)	○	○			◎	○	

◎: 幹事長、JRMC議長、各ワーキンググループ主査を示す。○: 担当を示す。
SF: スペースフォーラム、

5

JAQG活動の役割分担(続)



会社名	IAQG関連活動			APAQG関連活動	
	メンバーシップ	Strategy Focus Streams(*)	リーダーシップ	メンバーシップ	SF
IHI	評議会投票メンバー	○②		メンバー	
三菱重工業	評議会投票メンバー	I①,R①		メンバー	リーダー
川崎重工業	評議会投票メンバー	I②	APAQG セクターリーダー	メンバー	
富士重工業	評議会投票メンバー	I③	APAQG セクターサブリーダー	メンバー	
新明和工業	メンバー			メンバー	
三菱電機					サブリーダー
JAQG事務局(SJAC)	メンバー	○①		事務局	

(*)Strategy Focus Streams内訳

Improvement Strategy(改善の戦略):

- I① 規格要求,
- I② 要員能力,
- I③ 製品・サプライチェーン改善(SCMH)

Relationship Growth Strategy(関係構築の戦略):

- R① 航空当局, 宇宙業界, 防衛当局,
- Operating Management System(運営システム): ○①
- Other Party Management Team(相互監視チーム): ○②

JAQG活動状況 (H20年度実績)



H20年度	1/4半期	2/4半期	3/4半期	4/4半期
IAQG 関連会議	▼IAQGナポリ会議 (*) (4/8-11) ▼IAQG9101検討会議 (5/22-23 @アムステルダム) ▼OPMT/9104-1検討会議 (6/16-20 @ロングビーチ) ▼IAQG SWG会議 (7/10-11 @パリ) ▼SCMH検討会議 (7/8-10 @パリ) ▼IAQG 9101 検討会議 (7/8-10 @アムステルダム) IAQG 9101 検討会議 (11/17-19 @パリ) ▼ AAQG-RMC 会議 (1/14-16 @オーランド) ▼ IAQG SWG会議 (1/20-21 @ダラス) ▼ IAQG 9101 検討会議 (2/10-12 @ハンチントンビーチ) ▼		▼IAQG横浜会議 (*) (9/30-10/3)	
APAQG 関連会議				▼ APAQG会議 (3/17-18 @釜山)

* **IAQG会議の概要**はIAQGホームページ<http://www.iaqq.sae.org/iaqq/meetings/past.htm>の Supplier General Assembly (総会) 資料中“IAQG Overview”でご覧頂けます。

7

JAQG活動状況 (H20年度実績)



H20年度	1/4半期	2/4半期	3/4半期	4/4半期
運営委員会	▼4/23			
幹事会	▼ 4/23 ▼ 5/29 ▼ 6/24	▼ 7/4 ▼ 8/25 ▼ 9/11	▼ 11/12 ▼ 12/18	▼ 1/15 ▼ 2/20 ▼ 3/24
ワーキング グループ会議等 の開催	JIS Q 9100改正WG/JAQQ規格検討WG (ほぼ毎月開催)			
	特殊工程/ウェブの各WG、スペースフォーラムを適宜実施			
	◆ナポリ 4/9		◆横浜 10月	(注: ◆PRI Board of Directorへの派遣)
会員への 活動報告会 開催	JAQG HPIによる会報/JAQQ会員募集			
	▼活動説明会 (7/1,4)			
JIS Q 9100 認証制度の 運営管理	JRMCメンバー会議 (ほぼ毎月開催)			
	拡大 JRMC 会議 ▼ (5/9) ▼ (8/9) ▼ (11/27) 認定機関、認証機関への審査立会い、サーベイランス、他セクター監査を実施			

JAQG活動状況 (H21年度計画)



H21年度	1/4半期	2/4半期	3/4半期	4/4半期
IAQG 関連会議	▼IAQGフェニックス会議 (4/20-24)	▼IAQG9101検討会議(6月@米国) ▼IAQG SWG会議(7/8-9 @パリ) ▼SCMH 検討会議(7/7-9 @パリ) ▼(?)OPMT/9104-1検討会議(TBD) ▼(?)9100ガイダンス文書検討会議(TBD) IAQG SWG会議(1月 @ダラス)▼ SCMH 検討会議(1月 @ダラス)▼	▼IAQGミュンヘン会議 (10/12-10/16)	
APAQG 関連会議		▼ APAQG会議 (8月頃: 場所TBD)		▼ APAQG会議 (3月頃: 場所TBD)

9

JAQG活動状況 (H21年度計画)



H21年度	1/4半期	2/4半期	3/4半期	4/4半期
運営委員会	▼5/13			
幹事会	▼ 4/10 ▼ 5/13 ▼ 6/15	▼ ▼ ▼	▼ ▼	▼ ▼ ▼
ワーキング グループ会議等 の開催	規格/特殊工程/ウェブ/SCMHの各WG、スペースフォーラムを適宜開催 JAQG運営検討WGによる「IAQG 5ヵ年計画」に対応した戦略検討を実施 ◆フェニックス 4/21 ◇ミュンヘン 10月 (注: ◆PRI Board of Directorへの派遣)			
会員への 活動報告会 開催	JAQG HPによる会報/JAQG会員募集 ▼ 活動説明会及びJIS Q 9100:2009 概要説明(7月) ▼JAQG活動報告会(9月頃)			
JIS Q 9100 認証制度の 運営管理	JPMCメンバー会議(適宜) ▼ 拡大JPMC会議(4/6, 5/28) ▼拡大JPMC会議(TBD) 認定機関、認証機関への審査立会い、サーベイランス、他セクター監査を実施			

JAQG各W/G活動 (規格検討W/G) (1/3)



◆ H20年度活動実績

- ・IAQGの9100規格の改正作業について、IAQGでの検討段階から要求事項の検討に参画し、JAQGとしてコメントをIAQGへ提出するなど、9100規格改正に伴う活動を推進。
- ・JIS Q 9100の改正作業については、経済産業省及び日本規格協会のご協力を得ながら、JIS Q 9100改正原案作成委員会及びそのワーキンググループによる必要な審議を行い、JIS Q 9100改正原案を検討・作成。
⇒ 2009年4月20日 日本規格協会より、JIS Q 9100:2009として発行。

◆ H21年度活動計画

- ・JIS Q 9100:2009の発行に伴い、JAQG会員への改正点の概要説明を行うとともに、JAQGのHPを通じて改正版の理解を助ける補足情報の提供を行う。
- ・IAQGで作成されるガイダンス文書類の日本語版を検討/作成する。
- ・IAQG規格の制定/改正活動に参加し、日本語版のSJAC規格を制定/改正する（JPMCが検討したJIS Q 9100認証制度の運営・管理に関する日本固有のSJAC規格の制定/改正を含む）。

11

JAQG各W/G活動 (規格検討W/G) (2/3)



SJAC関連規格発行状況 — 1/2

No.	規格番号	区分	規格名称 (SJAC未発行の場合はIAQS名称を記載)	SJAC規格(現行)		次回	
				改訂	発行日	改訂	目標発行日
1	9010	認定・審査	JIS Q 9100 品質システムの認定・審査登録に対する要求事項	C	2007/6/29	D	2009年度
2	9011	認定・審査	航空宇宙審査員研修コースの開発、実施及び管理に関する要求事項	B	2007/6/29	2007年度改正完了	
	9012	認定・審査	航空宇宙審査登録管理委員会(JPMC)運営要領	廃止	2006/7/27	—	—
3	9100	製造	品質マネジメントシステム— 航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項	2009	2009/4/20	2015	TBD
4	9101	認定・審査	品質マネジメントシステム—航空、宇宙及び防衛分野 品質マネジメントシステム審査に対する要求事項(仮)	C	2007/1/24	D	(*)2009/10
5	9102	製造	航空宇宙 初回製品検査要求	A	2004/6/16	今年度は予定無し	
6	9103	製造	航空宇宙 キー特性管理	—	2002/4/30	今年度は予定無し	
7	9104	認定・審査	航空宇宙 品質マネジメントシステムの 審査登録制度に関する要求事項	pre	2005/11/7	—	2009年度 (9104-1として)
8	9104-2	認定・審査	航空宇宙 品質マネジメントシステム 審査登録制度のオーバーサイト要求事項	—	2007/6/29	A	2010年度
9	9104-3	認定・審査	航空宇宙審査員の力量及び研修コースに関する要求事項	—	2007/6/29	A	2010年度
10	9107	製造	Direct Delivery Authorization Guidance for Aerospace Companies	未	未発行	—	2009年度

(備考) ・「区分」は主に適用される組織を示す。

・9100は、JIS規格として発行。

・9010, 9011, 9012はJAQG(国内)独自に制定した規格である。

(*) 9101は、IAQG Final Draft発行が2009/7予定を前提とした場合である。

JAQG各W/G活動 (規格検討W/G) (3/3)



SJAC関連規格発行状況 — 2/2

No.	規格番号	区分	規格名称 (SJAC未発行の場合はIAQS名称を記載)	SJAC規格(現行)		次回	
				改訂	発行日	改訂	目標発行日
11	9110	整備	Quality Management Systems -Aerospace- Requirements for Maintenance Organizations	未	未発行	SJAC発行予定無し (ニーズ再調査)	
12	9111	整備	Quality Management Systems -Aerospace- Assessment for Maintenance Organizations	未	未発行	SJAC発行予定無し (9101へ統合予定)	
13	9114	製造	Direct Ship Guidance for Aerospace Companies	未	未発行	—	2009年度
14	9120	流通	Quality Management Systems -Aerospace- Requirements for Stockist Distributors	未	未発行	SJAC発行予定無し (ニーズ再調査)	
15	9121	流通	Quality Management Systems -Aerospace- Assessment for Stockist Distributors	未	未発行	SJAC発行予定無し (9101へ統合予定)	
16	9131	製造	航空宇宙 不適合報告書	—	2002/2/15	A	2009年度
17	9132	製造	航空宇宙 部品マーキングに対するデータマトリックス (2D)品質要求事項	—	2003/9/5	A	2009年度
18	9133	製造	Qualificaion Procedure for Aerospace Standard Parts	未	未発行	SJAC発行予定無し	
19	9134	製造	Supply Chain Risk Management Guideline	未	未発行	—	2009年度
20	9162	製造	作業者による自主確認プログラム	—	2006/10/31	今年度は予定無し	

(備考) ・「区分」は主に適用される組織を示す。

13

JAQG各W/G活動概要 (特殊工程W/G) (1/2)



◆ H20年度活動実績

・Nadcap ACチェックリストの対訳版をワーキング・グループにて作成・維持し、会員用のJAQGウェブサイトに掲示した。

・Nadcapの理事委員会(PRI Board of Director)へJAQGメンバーを派遣するとともに、H20年10月6～10日、横浜で開催されたNadcap会議にワーキンググループメンバーが参画した。

◆ H21年度活動計画

・昨年までに引き続き、Nadcap ACチェックリストの対訳版をワーキング・グループにて作成・維持し、会員用のJAQGウェブサイトに掲示する。

(現在の状況: 次スライド参照)

・Nadcapの理事委員会(PRI Board of Director)へJAQGメンバーを派遣する。

JAQG各W/G活動概要 (特殊工程W/G) (2/2)



・AC (Audit Criteria)チェックリストの対訳版の掲示

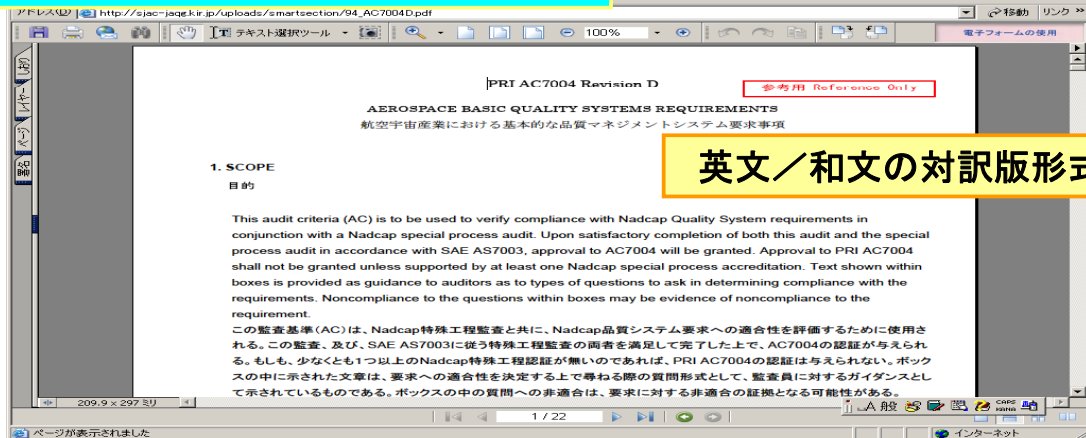
→ JAQG会員専用ホームページで公開中。

(<http://sjac-jaqg.kir.jp/modules/smartsection/category.php?categoryid=13>)

現在、熱処理、化学処理等、**26アイテム**を掲示中。

(近々に、NDT等の**7アイテム**を追加公開予定。)

ACチェックリストのJAQG Web公開例



15

JAQG各W/G活動 (ウェブ検討W/G) (1/3)



◆ H20年度活動実績

- ・平成20年7月に開催したJAQG活動説明会参加者のアンケート調査を行い、JAQG活動改善のためのフィードバックを実施。
- ・「JAQGニュース」を通じて、JIS Q 9100改正案に対するパブリックコメント公募、Nadcap AC日英対訳の掲載などIAQGやJAQG活動の最新情報をタイムリーに提供。

◆ H21年度活動計画

JAQG入会推進と会員サービス向上のため、

- ・JAQG活動説明会アンケートなどをJAQG活動の改善にフィードバックする。
- ・JAQGメンバーウェブサイトを維持し、「JAQGニュース」を通じてIAQGやJAQG活動の最新情報をタイムリーに提供する。
- ・APAQGメンバーとの情報提供/交換をスムーズにするため、APAQGメンバーウェブサイトの更なる整備を行う。

JAQG各W/G活動 (ウェブ検討W/G)(2/3)

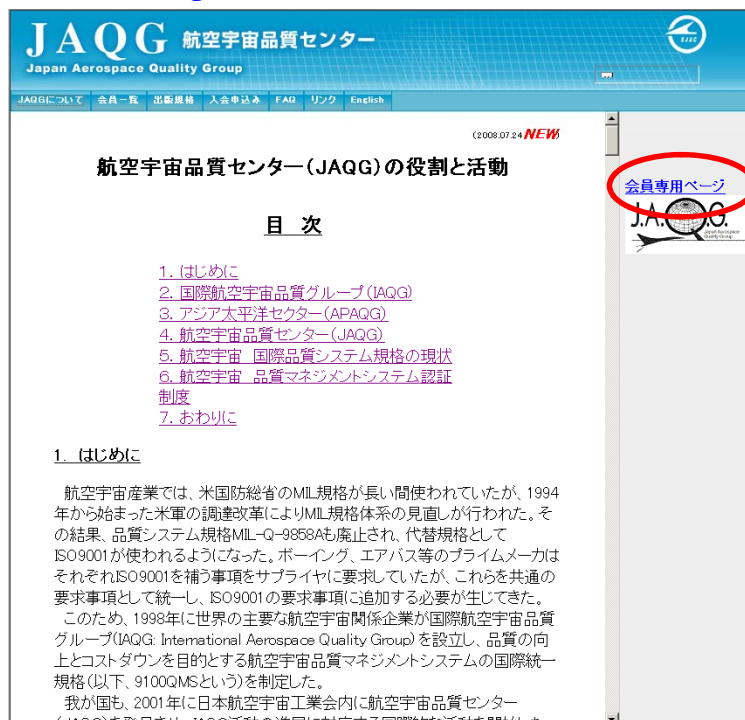


SJACウェブサイト

<http://www.sjac.or.jp>



JAQGパブリックウェブサイト



JAQGパブリックウェブサイト

<http://www.sjac.or.jp/jaqq/>

JAQG会員専用ウェブサイト

<http://sjac-jaqq.kir.jp/>

JAQG各W/G活動 (ウェブ検討W/G)(3/3)



JAQG会員専用ウェブサイト

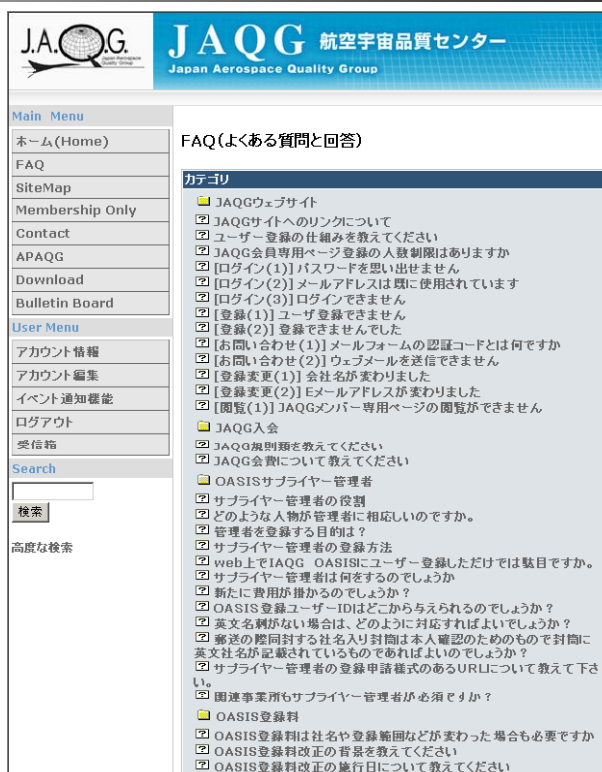
<http://sjac-jaqq.kir.jp/>

- IAQG/JAQG活動状況の報告
幹事会議事録
運営委員会資料/議事録
IAQG/JAQG活動説明会資料 など

- 情報提供サービス
NadcapAC日英対訳版
JIS Q 9100:2009改正概要
改正予定規格の情報 など

- 双方向コミュニケーション
[FAQ], [お問い合わせ] など

- APAQGウェブサイト併設



JAQG各W/G活動概要 (スペースフォーラム) (1/4)



活動目的:

JAQG Space Forumへの参加企業は、JIS Q 9100 品質マネジメントシステムを展開し、日本の宇宙機の品質の著しい改善とコスト低減を図る。

宇宙機: ロケット・衛星・ステーション等

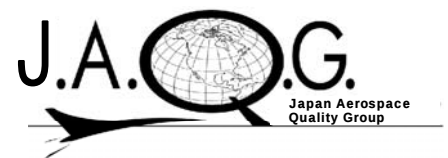
JAQG Space Forumメンバー

主査: 大脇 (MHI 名航)、副主査: 菊池 (NEC) → 尾形 (MELCO) に交代

委員 (会社・機関名): KHI、FHI、IA、IHI、NEC宇宙システム(事)、NEC誘導光電(事)、SPC、JAE、MPC、MHI名誘、MSS、APC Aero、HIREC、JAXA、SJAC

19

JAQG各W/G活動概要 (スペースフォーラム) (2/4)



IAQG Space Forum活動状況

1) セクターリーダー変更(H21年度)

AAQG SF: Larry Patzman (Lockeed Martin) (変更なし)

APAQG SF: 菊池 敏 (HIREC): 会社変更

新リーダー: 大脇 聡 (MHI) サブリーダー: 尾形 慶照 (MELCO)

EAQG SF: Michel Le Moine (EAQDS Astrium) (EAQG内にEAQG SFを組織)

IAQG SF: Roberto Ciaschi (ESA) (変更なし)

2) 戦略: Space Forumは宇宙分野成長に役立てるため、関係継続が必要か?

・2009年3月のEAQG会議における欧州業界会議で問題提起された。

・IAQG SF (4月フェニックス会議) としての結論

→ 宇宙の活動は継続すべきとの意見が圧倒的:

宇宙企業と宇宙機関が宇宙の立場を調整できる唯一の機会

(← 3月のJAQG SFで事前協議し、継続すべきとの結論)

JAQG各W/G活動概要 (スペースフォーラム) (3/4)



IAQG Space Forum活動状況(続き)

3)IAQG 5-Year Visionの対応検討

- ・フェニックス会議にて、初めて議論
4つのIAQG目標は、大局的には宇宙としても関係している。
- ・戦略W/Gへの参加
よりよい相互理解、統合と調整のために参加する。

4)SCMHへの支援

- ・SCMH項目の優先順位の提出
→宇宙の優先順位はIAQG全体の順位と良く整合

5)OPMTへの関与拡大

- AAQG: 以前より参加 EAQG: 新しく参加
- APAQG: JAQG SFリーダーとJAXAが、拡大JPMC会議に参加

21

JAQG各W/G活動概要 (スペースフォーラム) (4/4)



JAQG Space Forum活動状況

H20年度活動状況: 第6回(8/28)、第7回(3/11)

- ・JAQG Space Forum基本方針の確認
- ・9100改正内容の検討、IAQG SFへ提案
- ・IAQG SFへの参加
- ・各社9100認証取得・サプライヤへの展開状況調査と課題の抽出、情報共有
- ・下位規格 (FAI、キー特性、SCMH)適用に向けた課題を整理、情報共有
- ・IAQG活動について理解と展開(Nadcap、ソフトウェアQA、ヒューマンファクタ等)
- ・拡大JPMC会議へのオブザーバ参加
- ・JAXA JMR-005への9100適用検討

H21年度活動予定: 第8回(7/30)、第9回(2月)

- ・5-Year Vision: JAQG SFとしての取組
- ・9100のサプライヤへの展開と課題の共有
- ・下位規格の理解と対応検討共有(SCMH、等)

JAQG各W/G活動 (SCMH WG:新WG)



◆ H21年度活動計画

IAQGの戦略課題の重要課題の一つとなっているSCMH(サプライチェーンマネジメントハンドブック)活動に対応するため、SCMHワーキンググループを設立し、国内への適用を推進するとともにIAQGで開発される規格や資料に対する意見具申を行う。

活動方針及び計画の詳細は別途説明予定。

23

航空宇宙審査登録管理委員会 (JRMC)活動



◆ JIS Q 9100の認証基準の維持・整備を継続的に行うとともに 認証制度の管理・監視活動を着実に実施中。

H21年度はJIS Q 9100:2009改正版への認証(登録)移行に伴う情報提供や審査の有効性向上を目指した認証基準整備を行う。

詳細な活動状況については別途説明予定。

まとめ： H21年度 JAQG活動の主要課題



1. JIS Q 9100:2009改正版普及促進及び移行支援

2009年4月に発行されたJIS Q 9100:2009改正版についてJAQG活動報告会やJAQG HPを通じて普及を促進するとともに、組織の移行を支援するため規格改正点の概要説明会や改正版の理解を助ける補足情報の提供を行う。

2. IAQG Strategy Working Group活動に基づく活動戦略の検討

IAQGの戦略的課題検討チーム(Strategy Working Group)で検討中の新5カ年計画に基づきJAQGの活動戦略について運営検討WG等を通じて検討を行う。
特にH21年度は、新規WGを設立するSCMH(サプライチェーンマネジメントハンドブック)の適用検討を中心に活動を開始する。

参考:IAQG新5カ年計画(方針)

- ・製品ライフサイクルの全体を通じて製品・サービスの品質及び納期(に関する指標)を毎年20%改善する。
- ・サプライチェーンのすみからすみまでの強固なプロセス構築を達成する。
(サプライチェーンマネジメントハンドブックにおける成熟評価レベル3以上)
- ・IAQG品質マネジメントシステムの認証プログラムが強固で社会に認知された、価値あるものにする。
- ・産業界のサプライチェーンの90%がIAQG品質マネジメントシステム規格の認証を取得する。

3. JIS Q 9100認証制度の運営・管理

認証機関及び組織に対してJIS Q 9100:2009改正版の認証文書(登録証)への移行支援のための情報を提供する。また、IAQGで検討中の認証基準改定版について国内認定/認証機関と協同して検討を行うとともにIAQGに対し積極的に意見具申を行う。

25



・ご清聴ありがとうございました

JIS Q 9100

航空宇宙品質マネジメントシステム 認証制度について

2009年7月15日、17日
航空宇宙審査登録管理委員会(JRMC)

1

目次

JIS Q 9100 とは
JIS Q 9100 認証取得のメリット
JIS Q 9100の歴史
航空宇宙品質マネジメントシステム認証制度
9100国際認証制度の体系
航空宇宙スキームの特徴 ― 業界による監視制度(ICOP)―
JIS Q 9100 認証制度 文書体系
JIS Q 9100審査員
OASISとは
OASIS データ検索
OASISに関する留意点
世界の9100審査登録状況
JIS Q 9100審査登録状況
業界による監視制度(ICOP)の改善
IAQG OPMTで検討中の課題
9100:2009年版への移行
JAQG OPMTで検討中の課題
最後に

2

JIS Q 9100とは

ISO9001に航空宇宙要求事項を追加

他セクターと同等規格
(アメリカ AS9100、ヨーロッパ EN9100)



3

JIS Q 9100 認証取得のメリット

顧客要求(JIS Q 9100認証取得)状況

ボーイング/エアバス : 直接取引の全サプライヤ

ロールスロイス : 全サプライヤ

防衛省 : 調達品の品質保証要求に採用

JIS Q 9100 認証取得メリット

顧客品質システム監査の免除・軽減

(将来) サプライヤ管理の有効な手段として各国航空当局に
認知されることを、航空宇宙業界は目指している

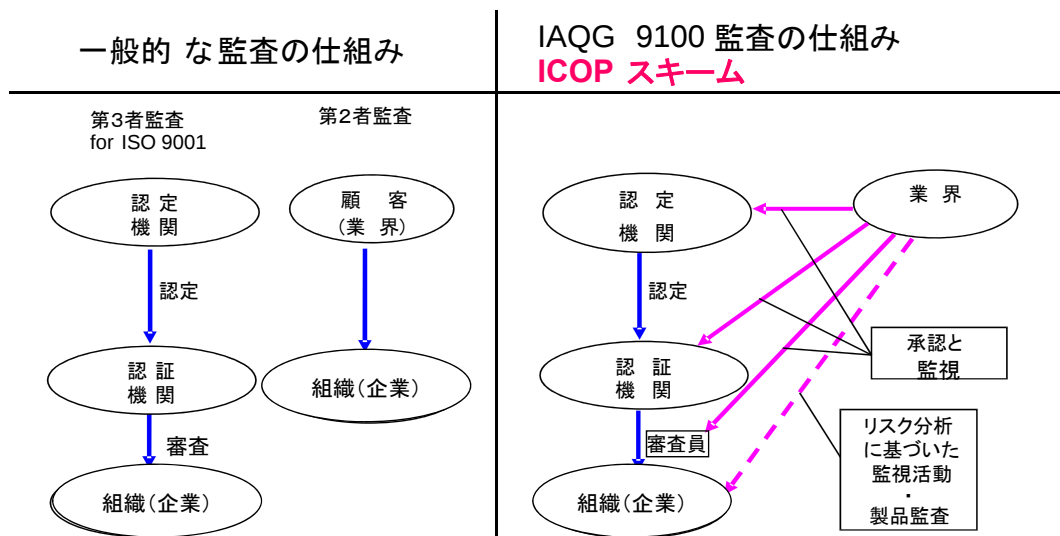
4

JIS Q 9100の歴史

JIS Q 9100の歴史

	1990	1995	2000	2005	2010
国際レベル	▽ISO9001 (1987)	(1997) ISO/TC20/WG11 ▽IAQG設立 (1998)	▽ISO9001 (2000)	ISO9001 (2008) ▽	
America	MIL-Q-9858A廃止	▽SAEの下AAQG発足 (1995) ▽SAE AS9000 (1997) ▽AS9100		AS9100 ▽ (2009)改正済	
Europe		▽AECMAの下EAQG発足 (1996) ▽prEN9000-1 (1997) ▽EN9100		EN9100 ▽ (2009)改正済	
JAPAN			▽SJAC9100 (1999) ▽JIS Q 9100 (2000) ▽JAQG設立 (2001)	JIS Q 9100 ▽ (2009)改正済	

航空宇宙品質マネジメントシステム認証制度

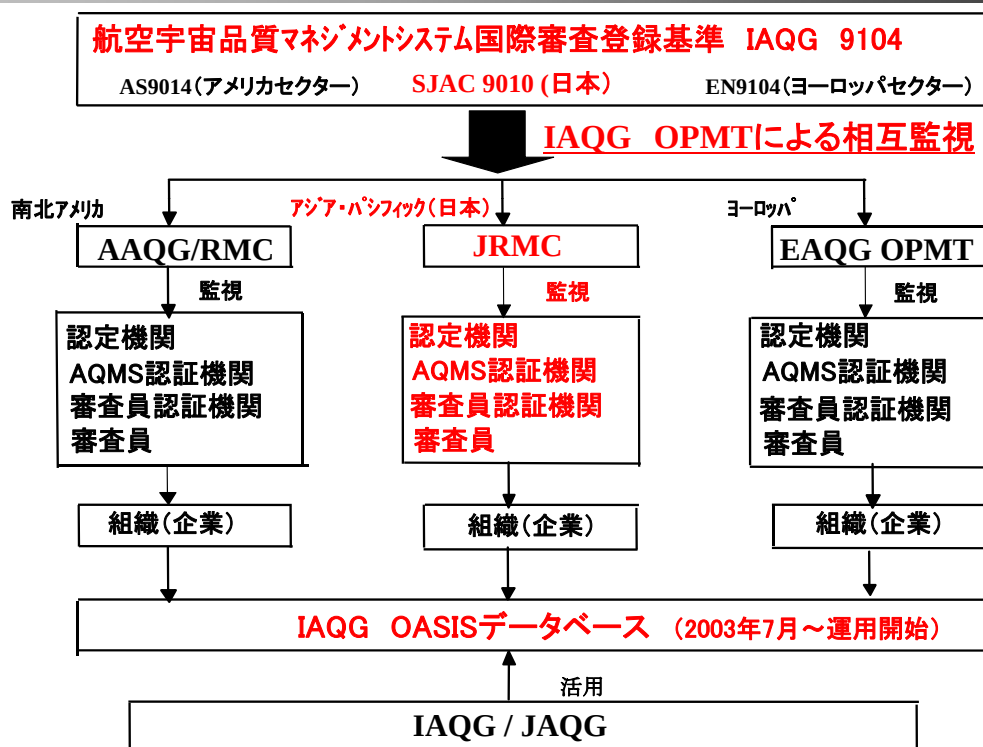


ICOP : Industry Controlled Other Party(業界による自主的な監視活動)

OPMT : Other Party Management Team(日本では航空宇宙審査登録委員会=JRMC)

認定機関=AB : Accreditation Body (日本ではJAB: Japan Accreditation Body)

認証機関=CB : Certification Body



7

航空宇宙スキームの特徴 — 業界による監視制度 (ICOP) —

航空宇宙審査登録管理委員会 (JRMC) の主な活動内容

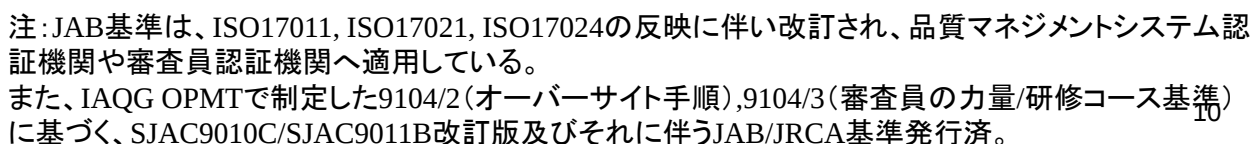
- ・ 認証基準 (SJAC9104pre, 9010, 9011等) の制定及び維持
- ・ 各関係機関 (品質マネジメントシステム認証機関、審査員認証機関、[研修提供者]) に対する日本適合性認定協会 (JAB) の認定行為の確認
(JABに対するサーベイランス実施)
- ・ 品質マネジメントシステム認証機関、審査員認証機関に対する定期的サーベイランスの実施 (事務所審査と組織審査立会)
(単独あるいはJABとの合同チーム監査)
- ・ 審査員認証機関による航空宇宙 (産業経験) 審査員資格の評価結果の追認
- ・ IAQG OPMTによる監査受審及び他セクターの監査
(2008年10月のIAQG横浜会議では、日本の審査登録制度が、運用開始以来第4回目の他セクターによる監査を受審。マイナー指摘: 1件 + 改善の機会: 2件)
- ・ JIS Q 9100認証制度に関する問題点の解決
(JRMCは日本の制度における最終決定権を持つ)

8

J.A.Q.G.
Japan Aerospace
Quality Group



J.A.Q.G.
Japan Aerospace
Quality Group



1. 航空宇宙審査員

ISO9001審査員資格/審査実績/基礎コース

2. 航空宇宙産業経験審査員

前項に加え、

1) 直近10年で4年以上の「業界」実務経験

もしくは

2) 直近15年で2年以上の「業界」実務経験/

専門コース(*) / 2回の検証審査

(*) 現在国内で専門コースは開催されていない

<準拠規格> SJAC9011 : 航空宇宙審査員研修コースの開発、実施及び管理に関する要求事項

11

OASISとは

One Aerospace Supplier Information System

SJAC9010Cによると・・・

IAQGの合意に基づき、航空宇宙品質マネジメントシステム規格に対して、品質マネジメント認証機関が実施した組織の認証に関するデータを、電子的な方法を通じて**世界で一元的に**把握し閲覧可能にするために、IAQGが開発し、構築した**データベース**である。

12

OASIS データ検索



IAQG OASIS - Microsoft Internet Explorer

アドレス: https://shop.sae.org/servlets/index?PORTAL_CODE=IAQG

International Aerospace Quality Group

Online Aerospace Supplier Information System

Log-Out Home About Us Contact Us
Edit Login Edit Profile Edit Address Help/Guidance

Data Search

- Change Summary
- Manage Watch List
- Manage Email Notification
- Feedback For Certification/Registration Bodies (CRB)
- IAQG Member Companies
- National Aerospace Industry Associations (NAIA)
- National Accreditation Bodies (NAB)
- Certification/Registration Bodies (CRB)
- Aerospace Experience Auditors
- Certified Suppliers

Certified Supplier Directory

Supplier Search

* Leave fields blank to find all suppliers.

Name: Sector/Country:
 Cert Number: State/Province:
 CRB:

Standard(s)

	9100	9110	9120
Based on ISO 9001:2000	☒	☐	☐
AS9100: A/S1 AS9100: B JISQ9100: 2001/S1 EN9100: 2003/S1 JISQ9100: 2004 EN9100: P2/S1 NBR15100: 2002/S1 NBR15100: 2004	☐	EN9110: P2/S1 AS9110 EN9110: 1EN	EN9120: 1EN EN9120: P2/S1 AS9120

Sort By: Sort Order: Rows per page:

Reset Search

This search will return suppliers with certificates that are currently valid or that have expired within the last thirteen weeks.

13

OASIS データ検索



https://shop.sae.org/servlets/OASISPrintServlet?PORTAL_CODE=IAQG&OBJECT_PKG=iaqg.businessClasse - Microsoft Internet Explorer

品質 マネジメント - 航空 審査登録証
システム - 宇宙

登録番号: BSK0002 / BSKA0003

会社(組織)名及び事業所名

 株式会社 IHI
航空宇宙事業本部

事業所の所在地

本社 : 〒135-8710 東京都江東区豊洲 3-1-1
 瑞穂地区 : 〒190-1297 東京都西多摩郡瑞穂町殿ヶ谷 229
 呉第二工場 : 〒737-0027 広島県呉市昭和町 2-1
 相馬第一工場 : 〒976-0001 福島県相馬市大野台 1-2-1
 相馬第二工場 : 〒976-0001 福島県相馬市大野台 1-2-3
 昭島事務所 : 〒196-8686 東京都昭島市井島町 3975-18
 富岡事務所 : 〒370-2398 群馬県富岡市藤木 900
 相生の外試験センター : 〒678-0041 兵庫県相生市相生 5292

 JAB
QMS Accreditation
R022, RA002

貴事業所の品質マネジメントシステム-航空宇宙-は、
 厳正な審査の結果、付属書に示す規格に適合している
 ことが認められましたので、当システム審査登録証を

14

OASISに関する留意点



既認証組織：

OASIS管理者の登録が必要

組織名称・住所の変更はOASIS管理者が実施

新規認証取得予定組織：

OASISユーザー登録が必要

OASIS管理者の登録が必要

組織名称・住所の初回登録が必要

OASIS利用マニュアルをJAQG webサイトに掲載予定

15

世界の9100審査登録状況



2009年4月23日現在のOASIS登録実績

セクター	国レベル 基準	認定機関	審査登録 機関	航空宇宙 産業経験 審査員	OASIS への登録 サイト数
米国地区	1	2	41	442	5607
アジアパ シフィック (日本)	1	1	4	25	408
ヨーロッパ	7	7	38	339	4104
合計	9	10	83	806	10119

16

JIS Q 9100審査登録状況



2009年6月9日現在

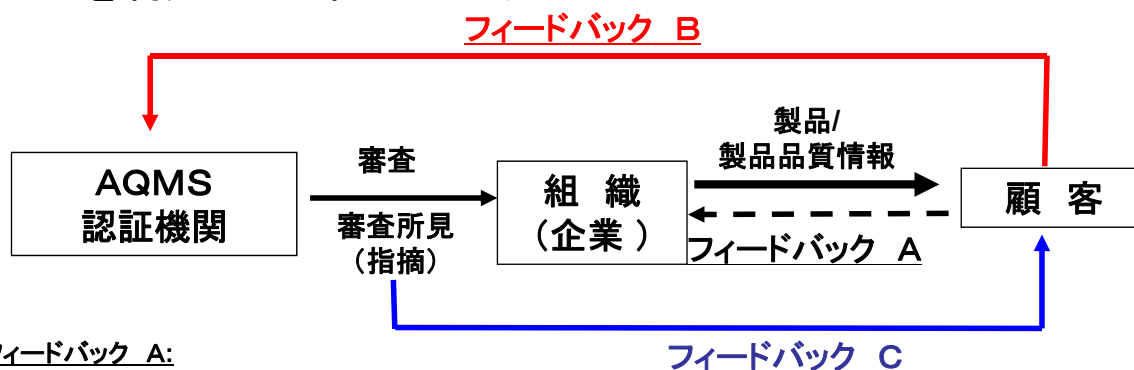
- ◇ 認定機関
 - ・ 日本適合性認定協会 (JAB)
- ◇ 審査登録機関(JAB認定取得順)
 - ・ 日本品質保証機構 (JQA)
 - ・ 防衛調達基盤整備協会 (BSK)
 - ・ 日本検査キューエイ(株) (JICQA)
 - ・ ロイドレジスター (LRQA)
- ◇ 審査員認証機関
 - ・ 品質システム審査員評価登録センター(JRCA)
- ◇ 研修機関(JRCA承認)
 - ・ (株)テクノファ
- ◇ 審査員(JRCA登録済 2009.4.5現在)
 - ・ 航空宇宙審査員 : 25 名
 - ・ 航空宇宙産業経験審査員 : 18 名
- ◇ 認証取得組織(登録済 2009.4.5現在)
 - ・ 229 組織

17

業会による監視制度(ICOP)の改善



OASISを利用したフィードバックシステム



フィードバック A:
供給者(登録組織)への製品不適合情報
目的:
・不適合の根本原因分析
・QMSに関わる是正処置及び予防処置の実施等

フィードバック B:
認証機関への製品品質情報(懸念事項等)の提供
目的:
・QMSに起因すると思われる顧客の懸念事項の通知
・潜在的な弱点に焦点を置いた認証機関の審査活動への反映

フィードバック C:
顧客への認証機関による審査所見の提供
目的:
・製品品質への影響度の判断材料
・供給者への追加サーベイランス等の実施要否の決定

18

9100:2009年版への移行

9101:2009の発行(下記)、航空宇宙審査員は**追加教育**受講が必須で、教材はIAQGレベルで作成される予定。認証機関は認定機関による**移行審査**が要求される見込み。

9101(審査方法)の改訂

2006年10月のIAQGセビア会議において、9101(チェックリスト)の改訂検討チーム設立が承認され、2007年1月キックオフ会議開催。現在2回目の最終原案のセクター合議回覧結果集計中。

9104/1 (AQMS認証基準)の改訂

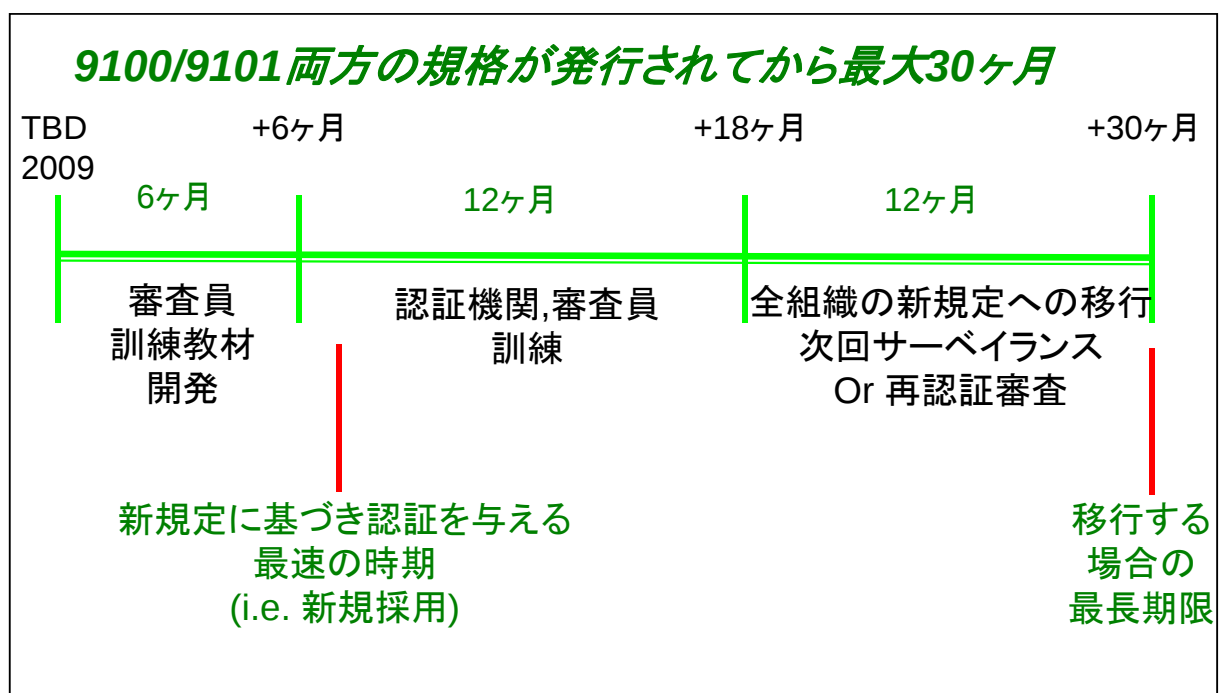
2008年2月のOPMTベルリン会議において、9100認証を更に付加価値を高めるためにFMEAを実施。ICOPプロセス改善案を9104/1ドラフトに反映中。特に、**審査工数計算**方法が大きく見直される可能性がある。

9104/2、9104/3の改訂

2009年4月のIAQG Phoenix会議にて、9104/2・9104/3改訂検討チーム設立が承認された。特に、オーバーサイト・航空宇宙審査員の力量に関する改善を取り入れられる予定。

19

9100:2009年版への移行



20

JIS Q 9001(ISO 9001):2008移行に伴う留意点

JIS Q 9001:2008への移行が期限内に完了しない場合、JIS Q 9100の認証はその時点で**無効**となる。(今後、JABを通じて認証機関に展開予定。)

審査員認証機関のJPMC承認への移行

従来審査員認証機関はSJAC9010Cに基づき認定機関による認定が要求されているが、現在、認定機関による認定から**JPMC承認へ移行**予定。

ICOP改善活動

2008年から認定機関、認証機関らと共同のJPMC **Work shop**を開催し、主に日本固有の9100認証制度に関するテーマを取り上げ、改善に取り組んでいる。

航空当局の認知

IAQGは**各国航空当局**とのコミュニケーションを継続実施中。将来におけるICOP活動(認証スキーム)の当局による認知への1ステップとして、アメリカセクターではFAAによるオーバーサイト立会い、ヨーロッパセクターではEASAによるオーバーサイト立会いが行われている。日本においても航空局との情報交換から開始していく予定。

21

最後に

SJAC9010C序文より・・・

また、この要求事項は、**長年にわたる航空宇宙企業により蓄積された経験を考慮しつつ、品質マネジメントシステムの認証における継続的な完全性と信頼性を確保するために必要な規定を示している。**

SCMH (Supply Chain Management Handbook) 活動について

社団法人 日本航空宇宙工業会
航空宇宙品質センター
(JAQG)

平成21年7月15日：名古屋会場(ミッドランドホール)

平成21年7月17日：東京会場(日本自転車会館 ホール)

1

目次

- Supply Chain Management Handbook
(SCMH)の紹介
- SCMH の構成(現在とこれから)
- 公開中のSCMHの具体例(2例の紹介)
- JAQG SCMH WG活動について
- e-SCMHへのアクセス方法

- SCMHとは?
サプライヤのための、ガイダンス文書、トレーニング資料、ベストプラクティスを集めたもの
- SCMHの目的は?
既存の規格を補足し、どうすれば要求事項を満たせるかに焦点をおく
- 航空宇宙業界への利点
ガイダンス資料を提供することで、品質関連規格に対するサプライチェーンの適合性の改善と改善活動の向上を図ることにより、製品品質の向上及びオンタイムデリバリを達成する。

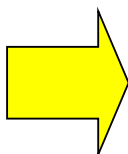
注記 e-SCMH(詳細後述)とは、SCMHツールをまとめた、全てのサプライヤが無料でアクセス可能なウェブベースのシステム(英文版のみ)

3

SCMH活動開始の背景

- これまでのIAQGの活動主体は、要求を規定した規格の制定であった。
- これからは、以下の観点でサプライヤの支援活動が必要。
 - 規格要求事項の理解の支援
 - 顧客の要求/期待や組織の目標を満たす方法についてのガイダンスや最適手法の提供

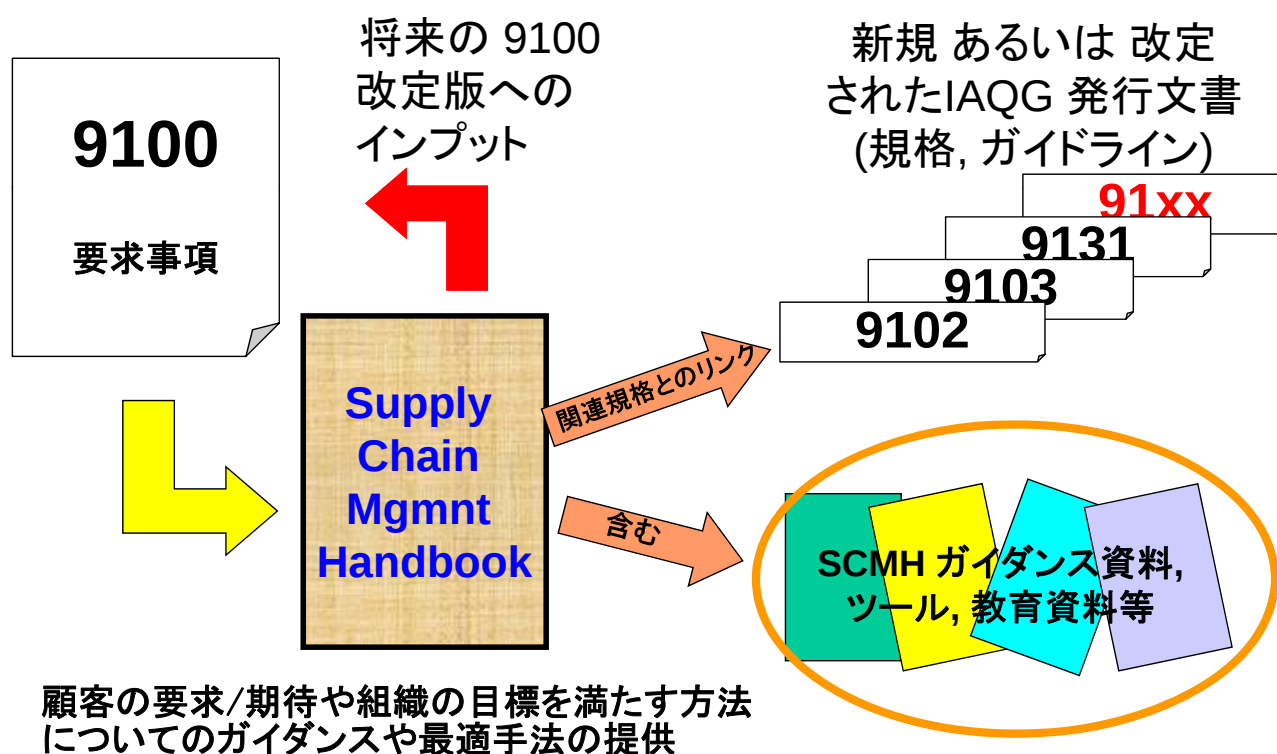
これまで:
“WHAT(何を)”
に焦点をあてた活動



これから:
“How(どのように)”
に焦点をあてた活動

“SCMH” Supply Chain Management Handbookを通じて
“How(どのように)”に焦点をあてた活動の展開が必要。

Supply Chain Management Handbook (SCMH) の紹介



5

Supply Chain Management Handbook (SCMH) の紹介



IAQG SCMh リーダーシップチーム

IAQG Mentor:

Wayne Brown (Boeing)

AAQG (北南米):

Larry Weng (Boeing)

Susan Armstrong (UTC)

APAQG (アジア・太平洋):

Shuji Komori (FHI)

EAQG (ヨーロッパ):

Bernard Lauras (Airbus)

Christian Buck (Safran)

SCMHの構成(現在とこれから)



SCMHは、IAQGメンバー会社により開発されたもので、その文書体系は製品のライフサイクルプロセス全体を対象範囲として、構築されている。

- － サプライチェーンの全階層の会社で使用されることを意図している
- － 現在発行済みのセクションは以下のとおり:
 - ・ 契約要求事項とフローダウン
 - ・ サプライヤ選定と能力評価モデル
 - ・ 根本原因分析と問題解決
 - ・ 作業移管の管理
 - ・ 9103 キー特性(ばらつき管理) トレーニングパッケージ
- － 他のセクションは、現在作成中あるいは将来開発される予定。

7

SCMHの構成(現在とこれから)



サプライチェーンマネジメントハンドブック



将来のSCMHトピックス

- 将来, SCMHへ追加すべき項目としていくつも提案が出されている。
- 提案リストは, チームで維持している。
- 現在作業中のものが完成次第, 新規プロジェクトを開始する。
- 優先順位付け等, IAQG戦略検討WGからも支援の約束を得ている。

提案されている 将来追加すべきトピック

- 契約のレビュー
- コンカレントエンジニアリングモデル
- 力量計画及び調整モデル
- 製造管理モデル
- パフォーマンス評価指標
- メンテナンスマニュアルの品質保証
- プログラムマネジメント
- 計測/計量
- 等...

9

公開中のSCMHの具体例その1: サプライヤ選定及び能力評価モデル

目的:

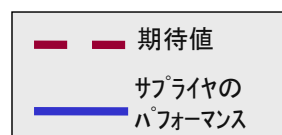
製品のライフサイクルプロセス全体を対象とした11のビジネスプロセスについて, サプライヤの成熟度を評価する

成熟度レベル1-5

- 1: 定義されておらず, 適用もできない
- 2: 定義済かつ適用済。しかし100%有効ではない, または社内の一部で未適用
- 3: 定義済, 適用済かつ有効である
- 4: 先手(予測)対応している
- 5: 最適な状態にある

4領域で評価:

- プロセス
- 人 & 組織
- ツール & データ
- パフォーマンス評価指標



必要に応じ, サプライヤに
開発余地のある領域

	1	2	3	4	5
Process	Process not defined. Short term planning only, not taking into account customer medium and long term demand. No forecast and planning based on effective orders only.	Unidirectional process, top down limited, no feedback loop from operations to sales. Actual orders and forecasts shared between functions with no systematic integration. Medium term planning on random forecasts and reactive mode.	Regular point reviews between all relevant functions, with feedback loop from operations to sales. Periodicity of Medium long term planning reviewed based on constraints (e.g. longest lead time).	Integrated planning process, integrated between all functions including feedback loop from operations to sales. Supply, demand, financial requirements integrated and shared.	Expertise optimized (Suppliers / partners and customers involvement). Mature based forecast models and continual demand management (anticipation, event capable and results oriented).
People and organization	Accountabilities (organization, roles, responsibilities, and authorities), skills and competencies not defined.	Accountabilities defined across various functions (Sales, Planning, Product Management, Manufacturing, Purchasing, Finance & Human resources) as required, but redundancies or gaps exist and no integrated approach.	Accountabilities shared between all relevant functions, covering medium term operations.	Accountabilities shared between all relevant functions, internally & externally. Scenario and constraint based planning.	Evidence of continual improvement culture mind set partner and customer's involvement.
Tools and data	No tools or local tools, (e.g. spreadsheets only). No data or short term data only (sales, capacity, resources...).	Basic Planning Tools. Data from different sources (sales), shared but not integrated between functions and/or covering medium term operations.	Existence of data from different sources, shared and integrated between all relevant functions, covering medium term operations.	Existence of data from different sources, shared and integrated between all relevant functions, internally & externally. Scenario and constraint based planning.	Event capable A.P.S. (anticipation of production rates changes and unplanned events, company self oriented...), collaborative with customer & suppliers.
Performance metrics	No measurement.	Basic metrics (orders vs expected sales, short and medium term planning variations...), available but not systematically used to drive operation. Actual performance metrics (setup & rework rates, stock turns, machine utilization rates...), locally available, but results not shared between functions and not regularly used in planning of resources and needs.	Metrics (orders vs expected sales, capacity management based on needs, medium term planning variations...), available to all customer needs vs operations. Actual performance metrics (setup & rework rates, productivity, stock turns, machine utilization rates...), shared between functions, and results regularly used in medium term planning of resources and needs.	Top level metrics and associated targets (Customer demand, On-time on Quality delivery, Factory utilization, costs of supply...), shared between functions and needs. Medium and long term forecast performance results integrated and periodically accuracy re-assessed and reviewed.	Metrics efficiency and effectiveness reviewed and optimized to support continual improvement, (profitability, inventory optimization and delivery performance).

公開中のSCMHの具体例その1: サプライヤ選定及び能力評価モデル

Supplier selection	1	2	3	4	5
Design and development	1	2	3	4	5
Contract management	1	2	3	4	5
Sales, Master Scheduling and Sequencing	1	2	3	4	5
Production	1	2	3	4	5
Tooling & Change	1	2	3	4	5
Performance Metrics	1	2	3	4	5

11のビジネスプロセスに
対するサプライヤ評価

製品, 顧客, リスク等
に応じ, 各プロセスに
重みを適用する

サプライヤとして選択するか
否か, 及び/又は, 改善のた
めの実施計画を策定する。

改善のための実施計画の達成を支援するために,
サプライチェーンマネジメントハンドブックに含まれる
他ガイドラインを用いることができる

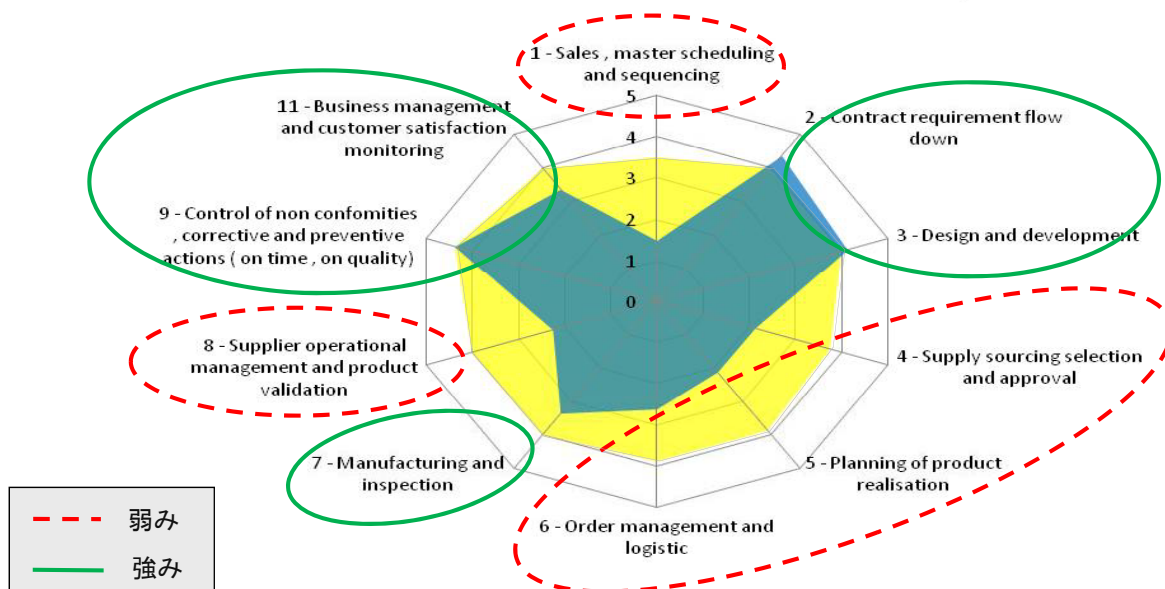
11

公開中のSCMHの具体例その1: サプライヤ選定及び能力評価モデル

評価結果の統合: 強みと弱みを識別できる
(この例では, 10. Customer support は未評価)

期待する能力レベル:

評価結果:



公開中のSCMHの具体例その2: 作業移管の管理

目的:

会社間,あるいはその外部のサプライチェーン間で,部品,部品パッケージまたは組立品の供給元を変更する際の効果的なリスク管理/マネジメント管理を実施するためのガイドラインを提供すること

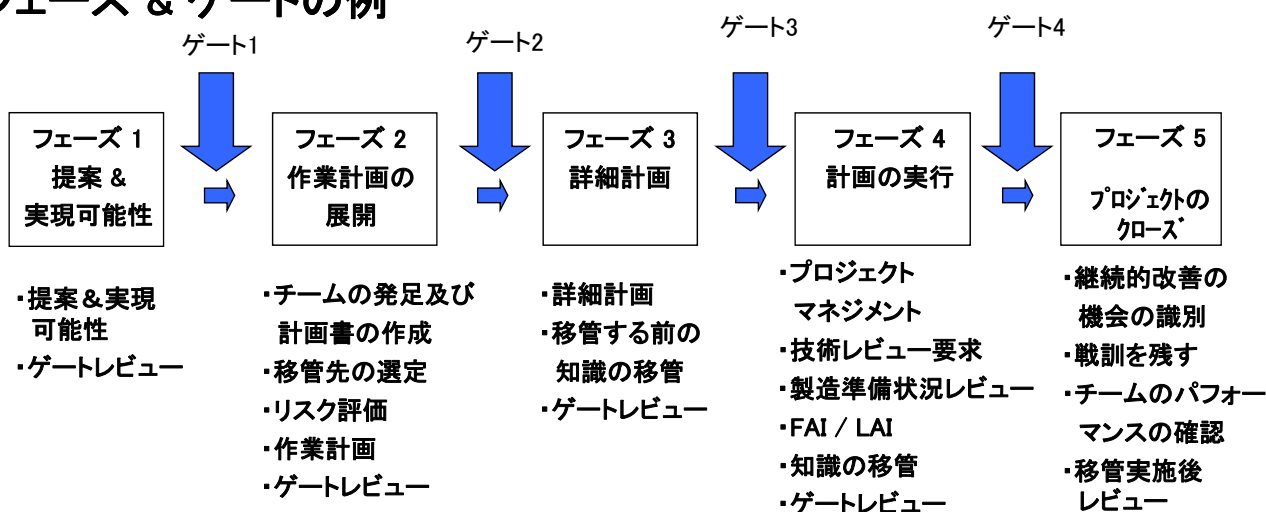
内容:発行文書は以下について記載している

- 全てのリスクが識別され軽減されていることを確認するため,意思決定プロセスの中で必要となる,主要フェーズ
- 実施すべき主要な活動及びそのアクションの主体者
- プロジェクトのクローズ及び戦訓までを含めた意思決定ゲート

13

公開中のSCMHの具体例その2: 作業移管の管理

フェーズ & ゲートの例



テンプレート

・作業移管プロジェクト提案フォーム ・ゲートチェックリスト	・プロジェクト計画書 ・リスクアセスメント ・作業計画 ・ゲートチェックリスト	・プロジェクトプラン ・移管チェックリスト ・ゲートチェックリスト	・製造準備状況レビューチェックリスト ・9102 FAI/LAI ・ゲートチェックリスト	・クローズフォーム
--	--	---	--	---

JAQG SCMHWG(ワーキンググループ) 活動について

15

「活動方針・内容」

IAQGで取組み中のSCMHについて, JAQG内 での具体的検討・展開を図る。

主な活動内容

- IAQG SCMHWG*と連携を図り, ベストプラクティスの共有化などの国内活動を推進するとともに, IAQGへ(コメントや新アイテムの提案等)フィードバックする。
(*正式名称はProduct and Supply Chain Improvement Strategy)
- IAQGにて開発中のe-SCMHについて内容の理解とともに日本国内での適用展開を図る。
(将来的に欧米プライムからの強い推奨事項となる可能性が大きい)
- SCMHWGコンテンツ利用促進のため和訳を作成しJAQGウェブサイトでの公開を推進する。

WGメンバー構成(チーム体制)



主査:小森 (富士重工業(株):*1)、副主査:岩垂 (三菱重工業(株) 名航:*2)

WGメンバー: (株)IHI

川崎重工業(株)

(株)島津製作所

新明和工業(株)

住友精密工業(株)

(株)東芝

ナブテスコ(株)

日本電気(株)

三菱重工業(株) 名誘

三菱電機(株)

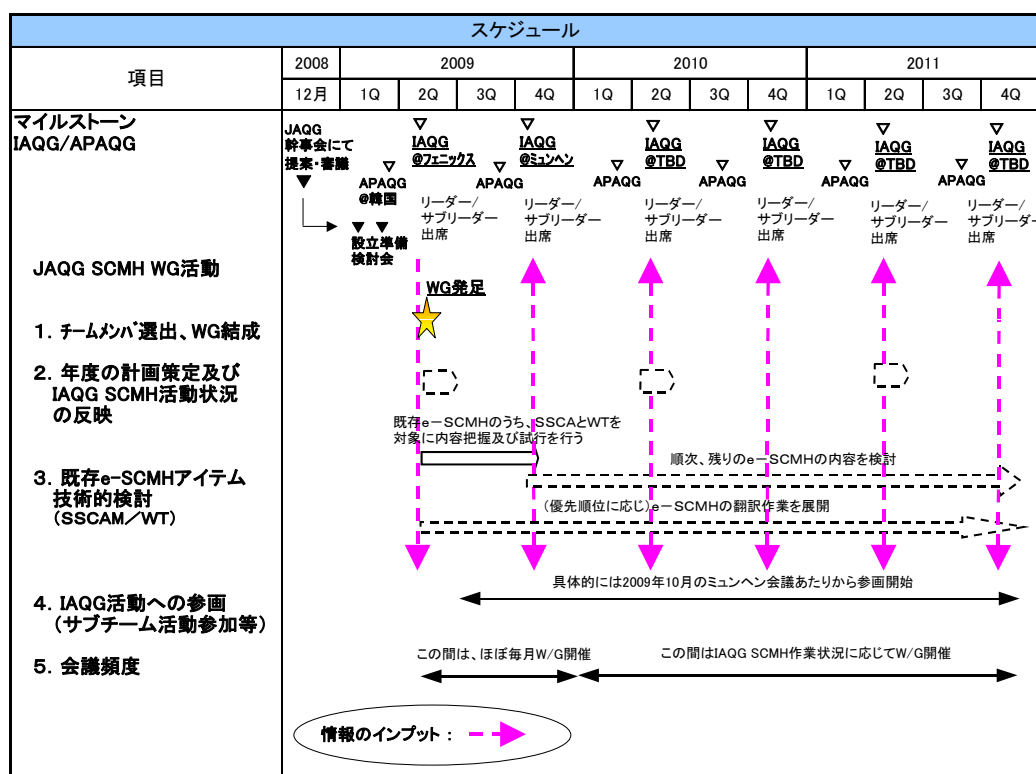
以上、12社

*1: IAQG SCMH リーダーシップチームメンバー/ APAQGリーダーも兼務

*2: IAQG SCMH リーダーシップチーム サポートメンバー

17

活動スケジュール(長期)



H21年度 主要活動項目



H21年1月～2月にかけて開催したSCMH WG設立準備検討会にてSCMHの各項目の優先度評価を実施。その結果を受けて以下の活動を計画。

➤ 既存e-SCMHアイテム

(4.1.3) Supplier Selection and Capability Assessment matrices (11.1) Work Transfer Management

の内容を検討し、各社において(特に4.1.3について)試行を実施する。

また、その結果をIAQG SCMHにフィードバックする。

- ・和訳については上記2項目を最優先とする他、下記アイテムを優先して実施する。(将来的には全アイテムを和訳する予定)

- ・2.1 – Introduction (Requirements and Flowdown)

- ・4.1.1 Introduction/ 4.1.2 Guidance Notes for matrices
(Supplier Selection & Capabilities Assessment)

- ・7.1 Variation Management of Key Characteristics (9103 Education)

- ・9.1 Root Cause Analysis and Problem Solving

(注:「Root Cause Analysis and Problem Solving」は9136規格として制定される予定)

→完成次第、順次、JAQGウェブに掲載予定。(公開範囲については未定)

19

H21年度 主要活動項目



➤ IAQG活動への参画検討対象アイテム

- ・Risk Management

- ・Special Requirements/Critical Items

上記項目は、9100:2009版の新規追加項目でもあるため、IAQG SCMH活動の動向を注視しながらJAQG内でも内容検討を行う。

➤ その他、検討予定の項目

- ・国内における活動展開のため、JAQGメンバー会社からも参加者を募集する。

- ・これまで実施していなかったQMSにおけるJAQG WG内各社のベンチマーク等も行い、その結果を共有するとともに、必要に応じ、IAQG SCMHへガイダンス文書追加等の提案を行っていく。

活動スケジュール(H21年度)



項目	スケジュール											
	2009											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
主要会議予定	▽IAQG @7エニックス		▽IAQG @ミュンヘン		▽IAQG @ミュンヘン							
JAQG SCMH WG活動												
1. チームメンバー選出、WG結成												
2. 年度の計画策定												
3. E-SCMH文書に対する技術的検討												
SSCAM / WT												
4. e-SCMH翻訳作業												
Contract Requirements Flowdown												
Variation Management of Key Characteristics												
Root Cause Analysis and Problem Solving (SJAC9136の作成)												
5. IAQG活動への参画 (サブチーム活動参加等)												
Risk Management												
Special Requirements/ Critical Items												
6. その他 QMSに関するベンチマーク等												

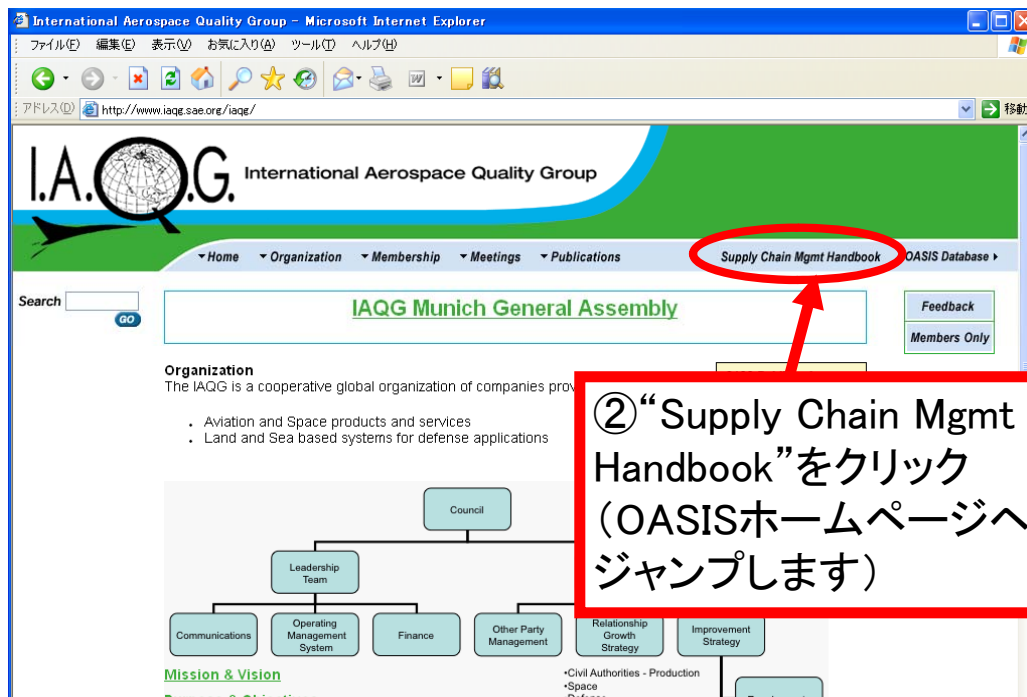
21



e-SCMHへのアクセス方法 について

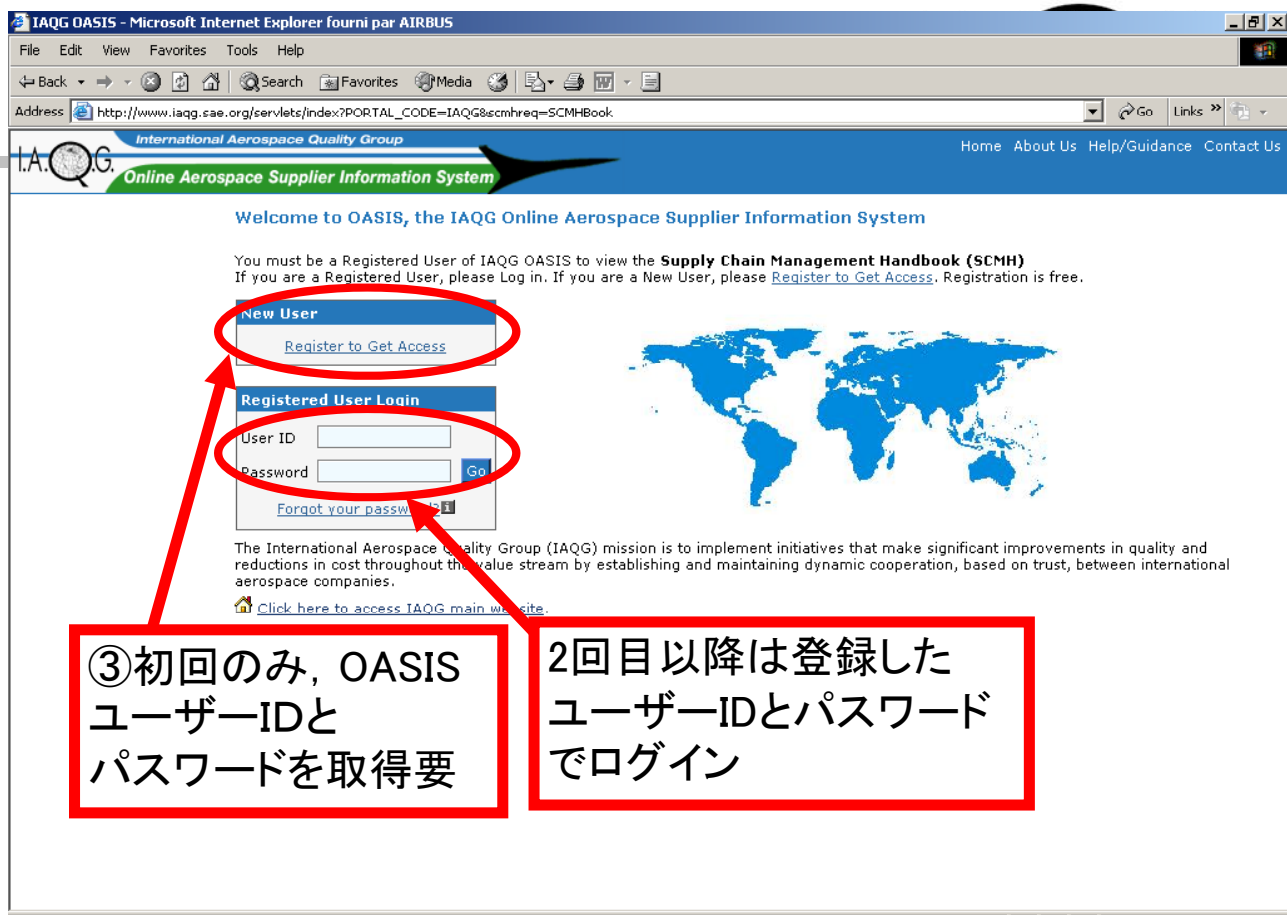
<http://www.sae.org/iaqg/>

①IAQGパブリックウェブ(<http://www.sae.org/iaqg/>)へアクセス



②“Supply Chain Mgmt Handbook”をクリック
(OASISホームページへジャンプします)

23



③初回のみ, OASIS
ユーザーIDと
パスワードを取得要

2回目以降は登録した
ユーザーIDとパスワード
でログイン

IAQG OASIS - Microsoft Internet Explorer fourni par AIRBUS

Address: https://shop.sae.org/servlets/index?PORTAL_CODE=IAQG&WORKAREA=REGISTRATION

International Aerospace Quality Group
Online Aerospace Supplier Information System

IAQG OASIS Registration

Registration is only needed for first time users. After registration, new users will receive an email with the registration information. Please do not register more than once.

If you are not sure if the user you are about to create is previously registered, use the ["Forgot your password"](http://www.iaqq.sae.org/oasis) option on the homepage (<http://www.iaqq.sae.org/oasis>).

* denotes required fields

Title: ☐ Mr. ☐ Ms./Mrs. *

Prefix:

First Name (Given Name): *

Middle Name:

Last Name (Family Name): *

Suffix:

Job Title:

Preferred Mailing Address: ☐ Home ☒ Business *

Business Name:

Department/Division:

Mail Stop:

Street: *

Suite/Apartment:

City: *

Country: *

State/Province: <N/A>

Postal Code:

④初回のみ,
“Registration”ページに
てOASISユーザー登録。
*印の付いている項目
は必須記入項目

25

IAQG OASIS - Microsoft Internet Explorer fourni par AIRBUS

Address: https://shop.sae.org/servlets/index?PORTAL_CODE=IAQG

International Aerospace Quality Group
Online Aerospace Supplier Information System

Log-Out Home About Us Contact Us
Edit Login Edit Profile Edit Address Help/Guidance

Hello Bernard LAURAS

Organizations
Airbus SAS

Applications
Auditor - Data Download
Supplier Summary Download
Help - IAQG Member

Data Search
Change Summary
Manage Watch List
Manage Email Notification
Feedback For Certification/Registration Bodies (CRB)
IAQG Member Companies
National Aerospace Industry Associations (NAIA)
National Accreditation Bodies (NAB)
Certification/Registration Bodies (CRB)
Auditors (AEA/non AEA)
Certified Suppliers

SCMH

Terms of Use

The SCMh is provided by the IAQG to assist with the advancement of quality practices. The use of the SCMh is entirely voluntary, and its applicability and suitability for any particular use, is the sole responsibility of the user. IAQG maintains intellectual property rights to the SCMh material.

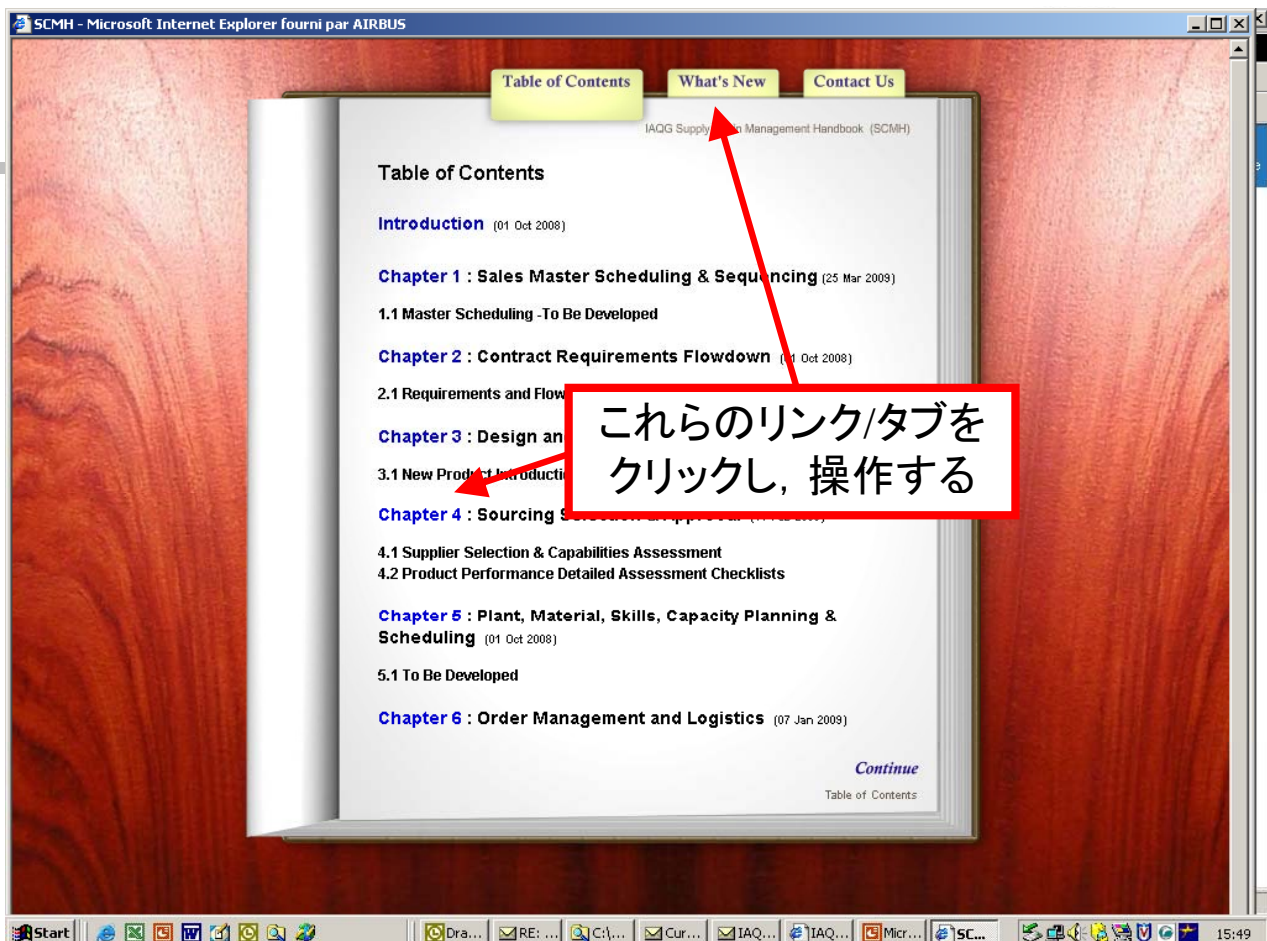
Do you accept these Terms?

※OASISログイン後, SCMHへの入り口となるページが現れなかった場合, メニューの“SCMH”をクリックする

⑤ログインすると, このページ(SCMHへの入り口となるページ)が表示される。“Accept Terms and Launch SCMh”をクリックすると, 別ウィンドウでe-SCMHが開く



27



28

・ご清聴ありがとうございました

JIS Q 9100:2009改正版の概要

平成21年 7月15日 (名古屋会場)

平成21年 7月17日 (東京会場)

社団法人 日本航空宇宙工業会
航空宇宙品質センター
(JAQG)

規格検討ワーキンググループ主査
JIS Q 9100改正原案作成委員会ワーキンググループ主査
河本 正博 (三菱重工業株式会社)

本資料について

- IAQG 9100チームによって作成された文書を
JAQG規格検討WGで和訳した文書をベース
- 「JIS Q 9100:2009 - 主な変更事項」のスライド
の構成
 - 改正／移動, 追加, 又は削除内容
 - 根拠となる理由
 - 実施／審査(監査)において考慮すべき事項注)用語及び定義は変更内容のみ

- JIS Q 9001:2008変更事項の取り込み
- IAQG 9100:2008変更事項の取り込み

以下はIAQG 9100規格の改正目的である。

- ISO 9001:2008変更事項の取り込み
- 防衛分野向け陸・海のシステムを含め、適用範囲の拡大
- IAQG 戦略 (On-Time, On-Quality Performance)
への整合性の確保
- ステークホルダーのニーズに基づく新しい要求事項の追加
- ステークホルダーにより、明確化が必要と特定された9100現行
版の要求事項(含む、文書化された手順の要求)の改善

JIS Q 9100:2009 - 主な変更事項

• 1 – 9100規格の適用範囲

– 改正内容:

- 適用範囲を、航空・宇宙同様に防衛分野へ拡大
- 9100, 9110, 及び9120の適切な使用のためのガイダンスを追加
(参考)9110:整備・修理・オーバーホール業者向け, 9120:ディストリビューター向けのQMS規格

– 根拠となる理由:

- 9100を基にした品質マネジメントシステムは、他の分野の複雑なシステムへ適用可能であり、また、陸・海を含む防衛分野における適用実施により利益を享受することが期待される。
- NATO Allied Quality Assurance Publications (AQAPs)に対する追加認識及び意見の整合

– 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- 航空、宇宙及び防衛分野において、規格が適用可能な場合、規格の使用の拡大及びより正しい理解の促進

• 3 – 追加された用語及び定義

– 3.1: 「リスク」

- 発生確率と起こり得る好ましくない結果との組合せをもつ望ましくない状態又は状況。

– 3.2: 「特別要求事項」

- 顧客によって識別された、又は組織によって明確化された要求事項であり、その達成には高いリスクを伴うため、リスクマネジメントプロセスの対象としなければならない要求事項。
- 特別要求事項の明確化に用いられる要素には、製品又はプロセスの複雑さ、過去の経験、製品又はプロセスの成熟度を含む。
- 特別要求事項の例には、顧客によって課せられた産業界の能力の限界にある性能要求事項、又は組織が自らの技術若しくはプロセス能力の限界にあると判定した要求事項が含まれる。

• 3 – 追加された用語及び定義 (続き)

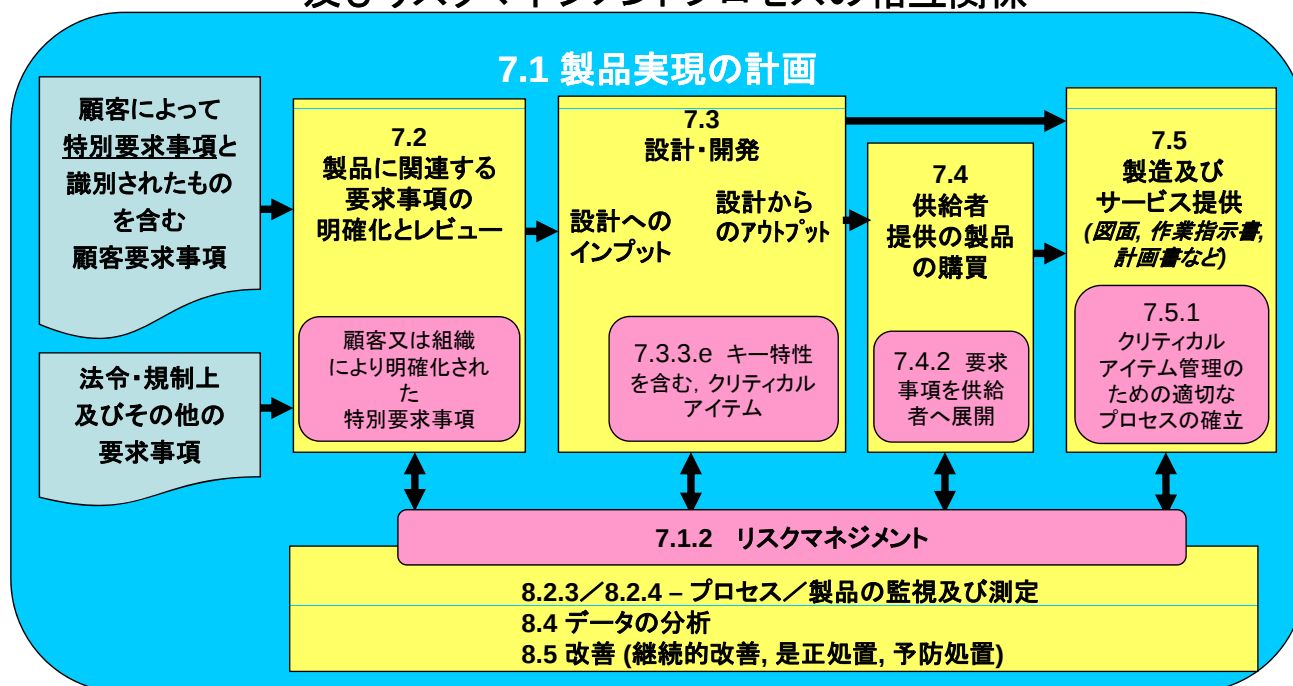
– 3.3: 「クリティカルアイテム」

- 安全性、性能、形状、取付け、機能、製造性、耐用年数などを含めた製品実現及び製品の使用に重大な影響を与えるアイテムであり、適切な管理を確実にするため特定の処置が必要なアイテム。

(例えば、機能、部品、ソフトウェア、特性、プロセス)

- クリティカルアイテムの例には、次を含む
 - 安全クリティカルアイテム
 - 破壊クリティカルアイテム
 - ミッションクリティカルアイテム
 - キー特性

特別要求事項, クリティカルアイテム, キー特性,
及びリスクマネジメントプロセスの相互関係



— H21年7月 JAQG活動説明会 (IS Q 9100:2009改正版の概要) —

7

4.1 – QMS 一般要求事項

– 改正/移動内容:

- 組織の品質マネジメントシステムは, 顧客及び適用される法令・規制上の品質マネジメントシステム要求事項も取り扱わなければならない。
(改正前は4.2.1(文書化に関する要求事項—一般)に規定)

– 根拠となる理由:

- この要求事項は, 文書化レベルだけではなく, 品質マネジメントシステム全体のレベルで適用されることを明確化する。

– 実施/審査(監査)において考慮すべき事項:

- “基本的な品質マネジメントシステム”(全ての顧客/活動に適用できるプロセス)の概念は使用されてもよいが, 顧客独自要求事項を取り扱う, 品質マネジメント計画書のような文書は, 品質マネジメントシステムの一部として考慮されなければならない。

— H21年7月 JAQG活動説明会 (IS Q 9100:2009改正版の概要) —

• 4.2.2 – 品質マニュアルとの関連

– 削除内容:

- 9100規格の要求事項と組織の文書化された手順との関係を明確にすることの要求事項

– 根拠となる理由:

- この要求事項は製品品質の保証に付加価値を与えないため
- この要求事項は、規格要求事項が満たされていることを保証する手段が特定されており、規範的であるとみなされたため。

– 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- 審査員は、審査を実施する上で当然確認する一つの要素として、該当する文書化された手順を明確にする必要がある。

• 5.2／8.2.1 – 顧客重視／顧客満足

– 追加内容:

- トップマネジメントは、製品の適合性及び納期どおりの引渡しに関する成果を含む実施状況が測定されていることを確実にするとともに、計画どおりの結果が達成できない、又は達成できる見込みがない場合には、適切な処置がとられることを確実にしなければならない。(5.2)
- 顧客満足を評価するために、監視し、使用する情報には、次を含めなければならない(ただし、これらに限定しない。)
 - 製品の適合性
 - 納期どおりの引渡しに関する成果を含む実施状況
 - 顧客からの苦情
 - 是正処置要求
- 組織は、これらの評価によって特定された課題に対して、顧客満足の改善計画を作成し、実施しなければならない。また、組織は、その結果の有効性を評価しなければならない。(8.2.1)

• 5.2／8.2.1 – 顧客重視／顧客満足（続き）

– 根拠となる理由:

- IAQG戦略に従った品質マネジメントシステムと組織のパフォーマンスとの明確な関係の構築
- 顧客満足の継続的改善の促進

– 実施／審査（監査）において考慮すべき事項:

- 顧客満足の測定及び改善計画に対するマネジメント重視及び組織のプロセスに対するレビュー

• 7.1.1 – プロジェクトマネジメント

– 追加内容:

- 組織及び製品に適するように、資源及びスケジュールの制約内で、要求事項を受容可能なリスクの下で満たすために、体系化され、管理された方法で製品実現を計画し、管理することの新しい要求事項

– 根拠となる理由:

- ほとんどの航空、宇宙及び防衛分野の製品は複雑であり、様々な段階のパートナー及び供給者が関わっている。
- この箇条により、製品実現を通じて、初期段階の計画立案及びプロジェクト計画のマネジメントがさらに重視される。

– 実施／審査（監査）において考慮すべき事項:

- 組織は、品質及びスケジュールが悪化しないことを確実にするように製品実現計画を管理するためのプロセスを所有しているか？
- プロジェクトを成功裏に完了させるための管理に、プロジェクト計画がどのように使用されているか？

• 7.1.2 – リスクマネジメント

– 追加内容:

- 組織及び製品に適切な、責任・基準・軽減及び受容を含めたリスクマネジメントのプロセスを実施することの新しい要求事項
- リスクの概念を9100改正版へ取り込み

– 根拠となる理由:

- リスクマネジメントは、製品実現における製品リスクをさらに重視するため、7.1.2へ位置付けられた。

– 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- 組織は、全ての適用される要求事項を処理するためのリスクマネジメントプロセスをもっているか？
- リスクの定義がプロセスの中で適切に理解され適用されているか？
- 組織内でリスクは首尾よく管理されているか？

• 7.1.3 – 形態管理(コンフィギュレーションマネジメント)

– 改正内容/項目移動:

- 4.3項から 7.1.3項へ移動
- ISO 10007規格の要求事項に沿った内容へ
例えば、形態管理の計画、形態の識別、変更管理 等

– 根拠となる理由:

- 製品の形態管理を重視、また、製品実現を通して形態管理がどのように維持されるかを重視するため

– 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- すべてのレベルのサプライチェーンにおけるすべての製品について、適用除外の基準(1.2参照)を考慮した上で、製品に適切な形態管理が期待される。

- 7.1.4 – 作業移管の管理

- 改正/移動内容:

- 7.5.1.4項 (製造)から 7.1.4項へ移動
 - 組織は作業移管の活動を計画し、管理するプロセスを持たなければならない。
 - 適用範囲を拡大し、恒久的な作業移管も対象
(例えば、組織のある施設から他の施設へ、組織から供給者へ、ある供給者から他の供給者へ)

- 根拠となる理由:

- 作業の移管は製品実現の全ての段階で起こりうるため
 - 作業移管においてしばしば起こりうる問題进行处理するため

- 実施／審査(監査)において考慮すべき項目:

- 作業移管については、計画及びそれに続く管理を含めたプロセスがなければならない。

- 7.4.1 – 供給者の品質データの認識

- 改正内容:

- 供給者の選定及び評価の一つとして、客観的かつ信頼できる外部情報源からの供給者の品質データを、組織による評価として使用することができるという「注記」を追加

- 根拠となる理由:

- 産業界では、外部情報源からの供給者の品質データを使用する傾向にあることが認識されているため
(例えば、Web上の航空宇宙供給者情報システム-OASIS, Nadcapなど)

- 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- 注記であるが、IAQGとしては供給者の持つリスクを理解する上で外部情報を活用することを推奨

- 7.4.1 – 供給者の承認状態

- 改正内容:

- 承認状態の例(承認, 条件付承認, 否認)及び承認範囲の例(製品の種類, プロセスの分類)を追加
 - 組織は, 供給者の承認状態の決定又は変更を行うプロセスを定義しなければならない。

- 根拠となる理由:

- 供給者を使用する条件は, その承認状態(区分)に基づくことを明確にするため

- 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- 供給者の承認に対する, プロセス, 責任及び権限は定義されなければならない。

- 7.4.3 – 試験報告書の妥当性確認

- 削除内容:

組織が購買した製品の検証に試験報告書を利用する場合, この報告書のデータが該当する仕様書に基づき, 受入れ可能であること。組織は, 定期的に材料試験報告書の妥当性を確認すること。

- 根拠となる理由:

- コンセプトが誤解され, 頻繁に誤用されたため
 - 要求事項は規範的で, 全てのステークホルダー(特に小規模な組織)及び全てのタイプの製品に適用されるものではなく, また, 多様な解釈が問題となったため

- 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- 例えば組織が材料の化学的/物理的な要求事項が重要であるクリティカルアイテムを設定する場合, リスクマネジメントプロセスの一部として, 試験報告書を検証しているか?

• 7.5.1.1 – 製造工程の検証

– 改正/移動内容:

- 8.2.4.2項 (監視・測定)から 7.5.1.1項 (製造)へ移動
- その製造工程, 製造文書及び治工具により, 要求事項を満たす部品及び組立品を製造できることを検証するための要求事項。このプロセスは, 初回の結果を無効にする変更(例えば, 設計や製造プロセスの変更, 治工具の変更)が生じたとき, 繰り返されなければならない。

– 根拠となる理由:

- この要求事項(2004年版の項目名は, 初回製品検査-FAI)は, 測定及び監視プロセスだけに関わるものではなく, 管理された状態で製品実現能力があることを確実にするためのプロセスであることから, 7項へ移動。(監視・測定)から 7.5.1.1項 (製造)へ移動。
- 特有及び単一の製品への正当な適用除外を許容するため

– 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- 適用除外の申請に対する妥当性確認(特有及び単一の製品と量産品との違い)

• 8.2.2 – 内部監査(手段及び手法)

– 削除内容:

- 品質マネジメントシステム要求事項の監査を補助するために, チェックシート, フローチャート, 類似の方法などの詳細な手段及び手法を作成すること。選定した手法の有効性は, 内部監査の有効性及び組織の総合的達成度によって評価される。

– 根拠となる理由:

- 要求事項が, 規範的すぎるため。2004年版で記述されている特定の手段は, ガイダンス資料で引用することがより適切であるため。

– 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

- 方法及び有効性の測定は, ISO 9001のとおりであるが, 手段及び手法は, 監査プロセスの補助に必要とされる場合がある。

8.2.4 – 抜取検査

– 改正内容:

- 組織が製品の合否判定の手段として抜取検査を使用する場合、抜取計画は認知された統計理論に基づき正当化されたものであり、使用に適するものでなければならない
 (“使用に適する”とは、抜取計画が製品の重要性及び工程能力に適していることである)。

– 根拠となる理由:

- 現行版8.2.4項の改善のため、多数の意見・要望が寄せられた。その内容は、統計理論上、正確ではないというものから、要求事項が規範的すぎるというものまであった。

– 実施／審査(監査)において考慮すべき事項:

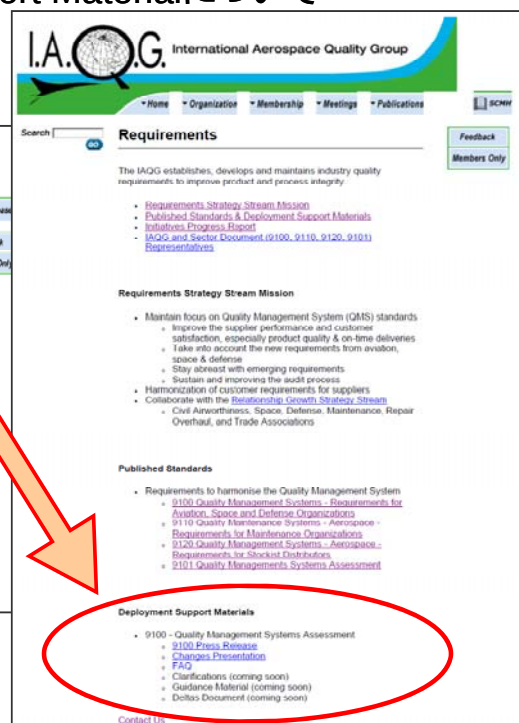
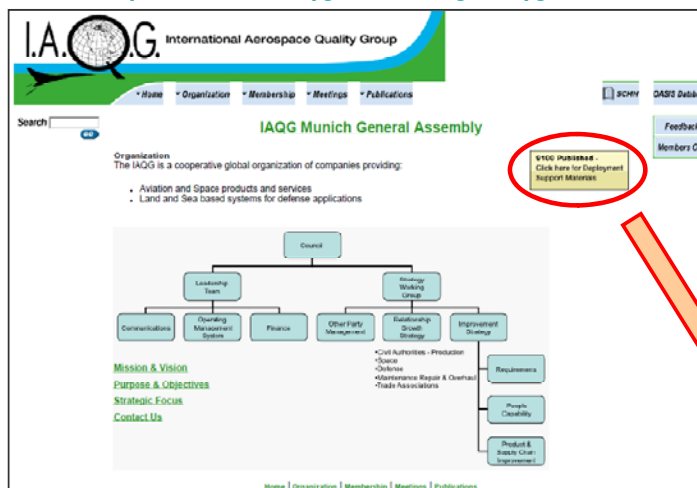
- 認知された統計理論の利用の妥当性確認
- 製品の重要性に応じて使用されるプロセス

参考情報

IAQGの作成する9100 Deployment Support Materialについて

– IAQGのウェブサイトから参照可能

<http://www.iaqq.sae.org/iaqq/>



- JAQG規格検討WGにて和訳版を適宜作成中。



Nadcapについて

平成21年度

IAQG/JAQG活動説明会

7月15日(水)名古屋会場

7月17日(金)東京会場

PRI日本事務所

所長 藤澤 健一

内容

Slide 1

1. Nadcap概要

2. Nadcap受審状況

3. Nadcap会議

4. PRIからのお知らせ



1. Nadcap概要



1. Nadcap概要

Slide 3

Nadcap・・・

- ・国際航空宇宙産業界の
特殊工程認証プログラム



1. Nadcap概要

Slide 4

Nadcap対象特殊工程

- Heat Treating(HT) :熱処理
- Chemical Processing(CP) :化学処理
- Coating(CT) :皮膜処理
- Welding(WLD) :溶接
- Nonconventional Machining(NM)/
Surface Enhancement(SE) : 特殊加工/表面強化
- Composites(COMP) : 複合材
- Non Destructive Test(NDT) :非破壊検査



1. Nadcap概要

Slide 5

システム&その他

- AC7004 :AQS品質システム
- AC7006 :材料試験場認定ISO/IEC17025
- Sealants (SLT) :シーラント
- Elastomer Seals (SEAL) :エラストマーシール
- Electronics (ETG) :電子
- Fasteners (FAST) :ファスナー



1. Nadcap概要

Slide 6

NADCAP → Nadcap

NADCAP:

National Aerospace and Defense
Contractors Accreditation Program

- ・1990年、米国に本部を置くNPO団体:PRI
(SAE内部)が発足し、特殊工程を監査, 認証
を開始

PRI: Performance Review Institute

SAE: Society of Automotive Engineers



1. Nadcap概要

Slide 7

Nadcap

主要な欧米航空機産業メーカー



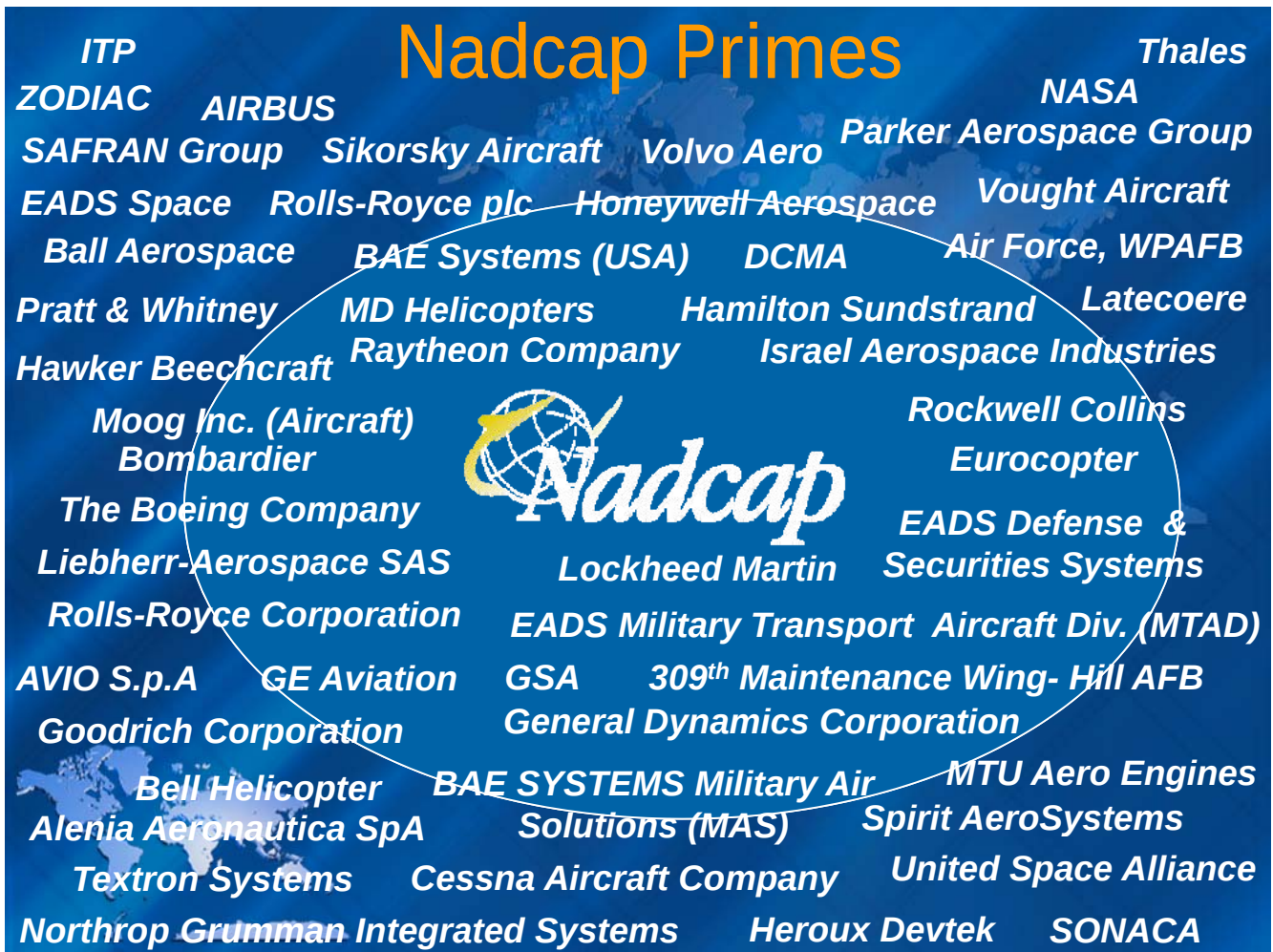
PRIを運営

特殊工程について、審査、認証

1次サプライヤ

2次サプライヤ





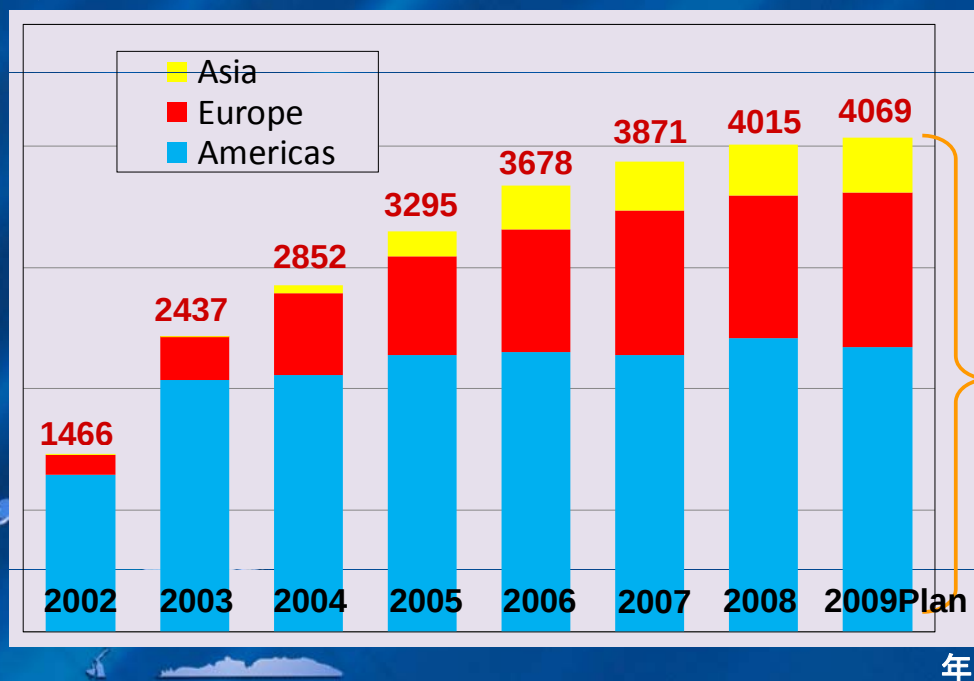
2. Nadcap受審状況



2. Nadcap受審状況 (世界審査数)

Slide 10

件数

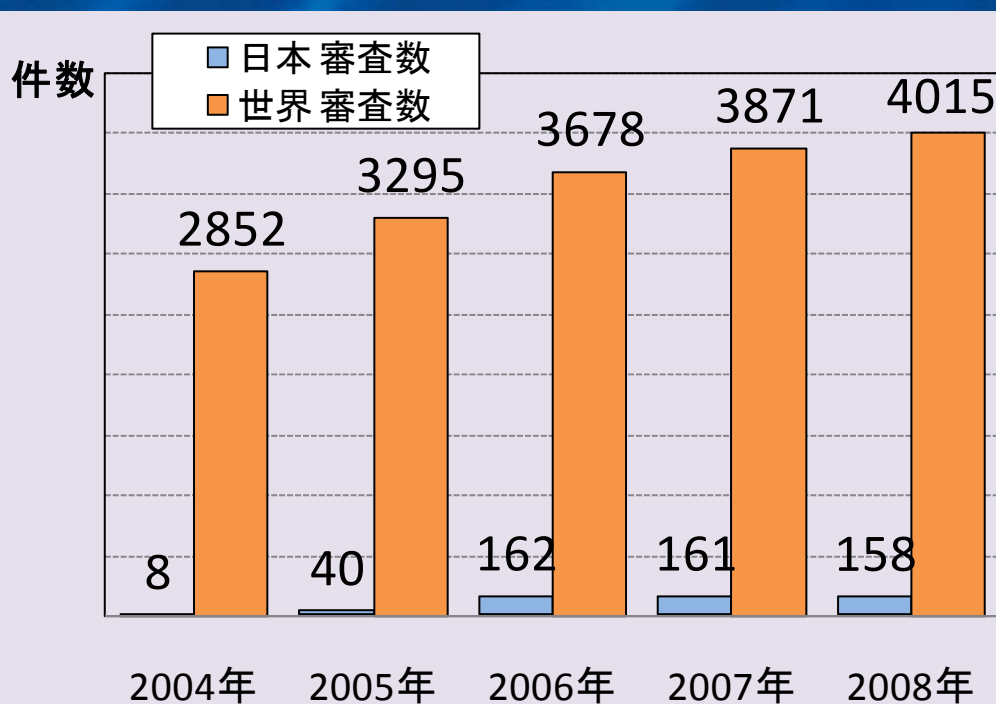


アジア・1割
欧州・3割
全米・6割



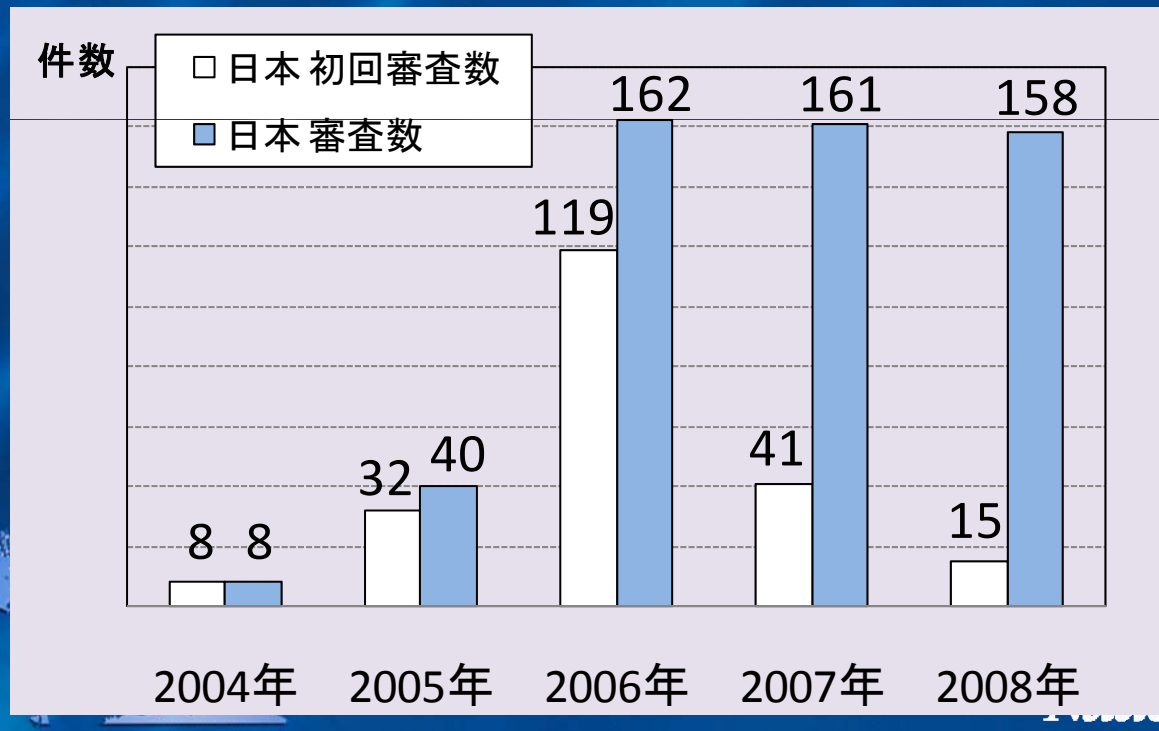
2. Nadcap受審状況 (世界審査数 vs 日本審査数)

Slide 11



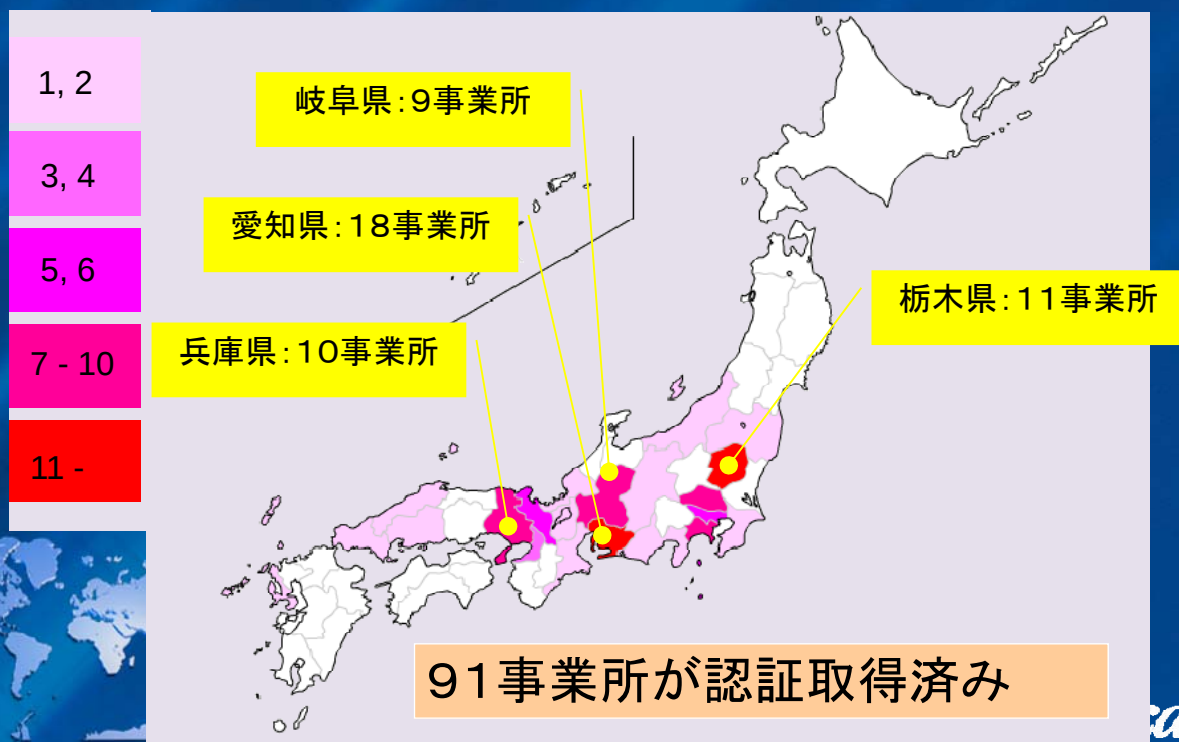
2. Nadcap受審状況 (日本審査数)

Slide 12



2. Nadcap受審状況 (県別認証取得数)

Slide 13



2. Nadcap受審状況 (工程別日本企業取得数)

Slide 14

工程	認証取得数	工程	認証取得数
NDT (非破壊検査)	49	AQS* (品質システム)	12
HT (熱処理)	37	NM (特殊加工)	10
CP (化学処理)	30	CT (コーティング)	9
SE (表面強化)	25	MTL (材料試験)	6
COMP (複合材)	18	SLT (シーラント)	1
WLD (溶接)	14		

* AQSは、特殊工程ではないが、Nadcap認証の一工程



3. Nadcap会議



3. Nadcap会議

Slide 16

Nadcap会議とは・・・

年3回実施されており、ACチェックリストの見直し、Nadcapの状況報告、サプライヤー支援委員会からの報告等が行われる。

AC(Audit Criteria)チェックリスト・・・

Nadcapの審査で使用するチェックリスト。
プライムメンバーで作成されるが、サプライヤからの
変更依頼も反映される場合がある。



3. Nadcap会議

Slide 17

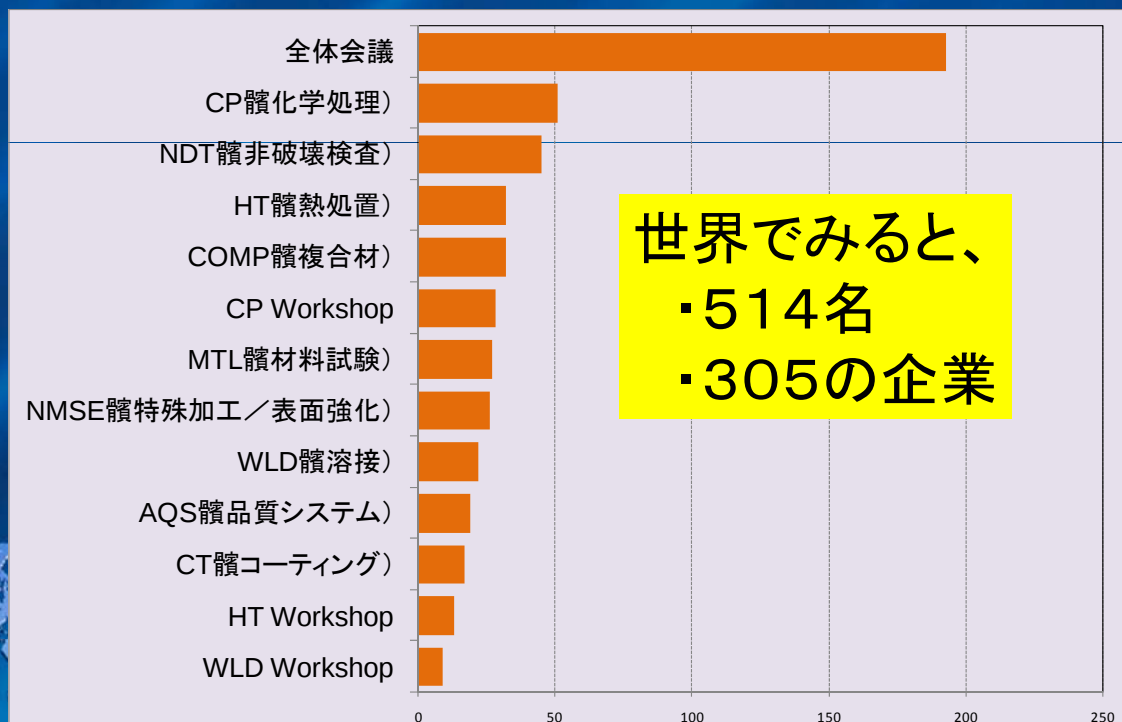
- 開催日時：
2008年10月6日(月)～10月9日(木)
- 場所： ワークピア横浜
横浜市山下町24-1
山下公園前、県民ホール隣

次回：2009年10月19-23日@ピッツバーグ
2010年6月はPRIの20周年記念で
シンガポールで開催予定



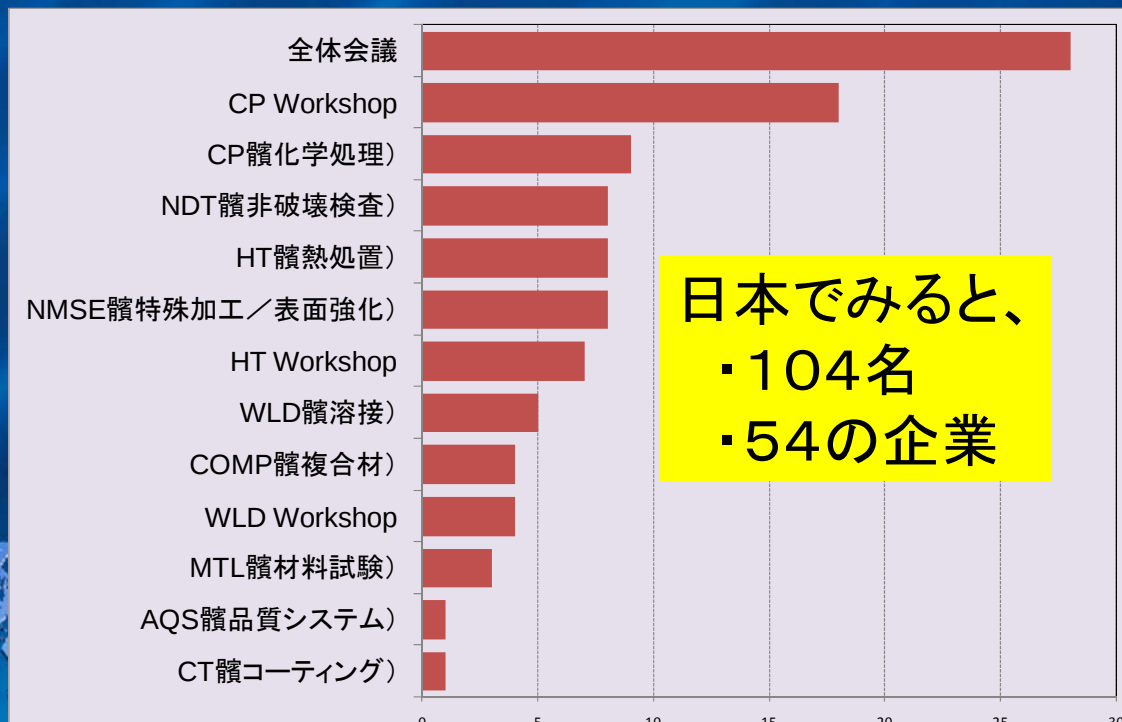
3. Nadcap会議

Slide 18



3. Nadcap会議

Slide 19



3. Nadcap会議

Slide 20

参加者からのフィードバック

良かった点・・・

- ・PRIスタッフやプライムメンバーとの交流
- ・ACチェックリストの議論への参加
- ・ワークショップの開催

改善点・・・

- ・通訳
- ・参加者へ発言を促す議長の配慮
- ・プロジェクトの資料



4. PRIからのお知らせ



4. PRIからのお知らせ

Slide 22

4. 1 eAuditNet Ver2.0

4. 2 eQuaLearn

4. 3 審査員の募集

4. 4 活用できるWebサイト



4. 1 eAuditNet Ver2.0

Slide 23

- ・2009年5月にeAuditNet(受審申請から認証取得までを管理したウェブシステム)がVer1. 0から2. 0へ更新されました
- ・GUI機能が充実しました
- ・ドキュメント類が項目毎に整理されました
- ・今までのユーザーID、パスワードでログイン可能です



GUI: Graphic User Interface



4. 2 eQuaLearn

Slide 24

1. eQuaLearnとは何ですか？

PRIが2008年4月に設立した、教育プログラムです。
eQuaLearnの目的は、国際的なスタンダードに基づいた、各専門プログラムを低価格で提供し、持続的改善に役立てるのが狙いです。

2. どのような教育プログラムがありますか？

- ・内部監査セミナー (Internal Auditing)
- ・高温測定セミナー (Introduction to Pyrometry)
- ・根本原因と是正処置セミナー (Root Cause Corrective Action)



4. 2 eQuaLearn

Slide 25

3. eQuaLearnの新しいプログラム

今年の秋に日本で、以下のセミナーを開催します。

- ① 化学処理審査の導入セミナー (Introduction to CP)
- ② 熱処理審査の導入セミナー (Introduction to HT)

いずれのセミナーも

- ① チェックリストの理解を目的とした内容
- ② トップ10不適合からの傾向と対策
- ③ NCRに対する回答例

NCR: NonConformance Reporting (Nadcap審査での指摘事項)



4. 2 eQuaLearn

Slide 26

4. On-Site プログラムの紹介

eQuaLearnのプログラムでは、各サプライヤ様へ出向いての出張セミナー(On-Siteプログラム)を提供しています

メリットは

- ・一人当たりの参加費用が安い
- ・各サプライヤ様が抱えている技術的な問題点を解決
- ・各サプライヤ様の比較的希望の日程で開催
- ・各種セミナーを組み合わせでの受講も可能

お問い合わせ: PRI日本事務所 / 藤澤

email: fujisawa@sae.org Tel: 0568-45



4. 2 eQuaLearn

Slide 27



4. 2 eQuaLearn

Slide 28

PRIの新しい取り組み



…特殊工程 人員認証
特殊工程管理の向上 及びまたは、
Nadcap認証を取得するための人員
認証(力量評価)



…サプライヤ様に対する品質、技術的な支援、
コンサル

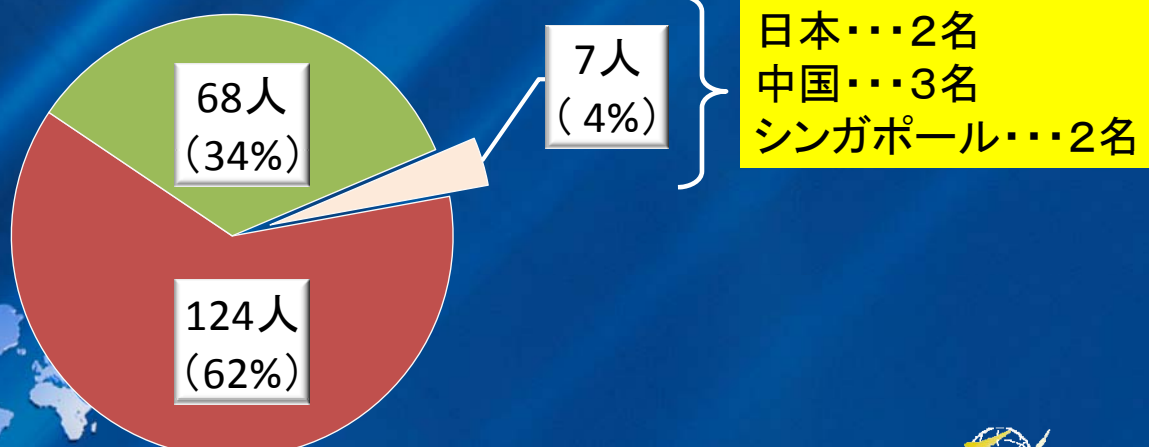
いずれも、2009年以降実施



4. 3 審査員の募集

Slide 29

■ アジア ■ 全米 ■ 欧州



4. 4 活用できるWebサイト

Slide 30

www.eauditnet.com

- ACチェックリスト
- Audit Handbook
- eAuditNetの使い方
- 不適合に関する返答方法
- よくある不適合

www.pri-network.org

- Supplier Info (メインページ内)
- Supplier Training

www.eQuaLearn.com

- 各種セミナー情報

www.eAuditStaff.com

- 審査員募集要項



質問にお答えします



平成 21 年度 JAQG 事業計画

平成 21 年度 JAQG 事業計画は H18 年度及び H19 年度に実施した以下の JAQG 中長期戦略に基づくものである。

I. JAQG の目的

JAQG は、品質の著しい改善とコストの削減を実現するため世界の航空宇宙業界と共に活動を進める。

- (1) サプライチェーン全般に渡って品質向上につながる施策の実施
- (2) サプライチェーンへの要求事項の標準化による無駄の排除

II. JAQG 戦略の具体的実施事項

4 つの改善戦略と関係構築戦略を中心に展開する。

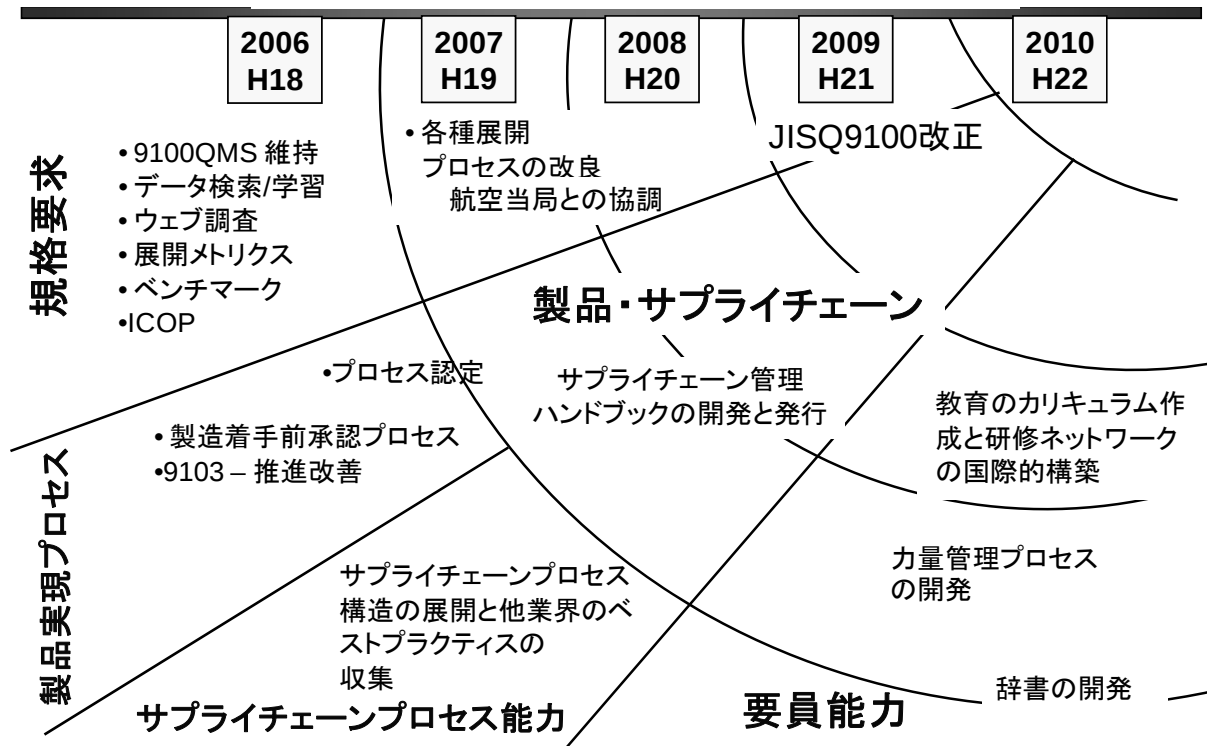
- (1) 改善戦略「規格要求」は航空宇宙品質マネジメントシステム関連規格の充実と普及を推進する。
- (2) 改善戦略「製品・サプライチェーン」は、社内外に迅速かつ持続的な OTQD (On-Time, On-Quality Delivery) を確実なものとするための製品実現プロセスを確立し、これを推進する。OTQD の継続的な改善を実現するためのグローバルなサプライチェーンプロセス規格/指針を開発する。
- (3) 改善戦略「要員能力」は、OTQD の継続的な改善を実現するためサプライチェーンの全工程についてこれを担う要員の能力を開発し、維持するプログラムを展開する。
- (4) 関係構築戦略は、経産省、防衛省、国交省、JAXA など Stakeholder との協働の充実を推進する。

III. JAQG 戦略ロードマップ

JAQG 戦略ロードマップを図ー 1 に示す。

- (1) 改善戦略「規格要求」は平成 21 年の JIS Q 9100 改正版の発行に伴い、さらなる 9100QMS の維持・発展を行う。
- (2) 改善戦略「製品・サプライチェーン」は、製造着手前の承認プロセス、ベストプラクティス、グローバルなサプライチェーンプロセス規格/指針などを検討し、サプライチェーン管理ハンドブック (SCMH) に集約し業界全体の OTQD を確実なものとする。
- (3) 改善戦略「要員能力」は、航空宇宙品質用語辞書の開発などを通じて業界全体で工程を担う要員の能力を開発・維持するプログラムを展開し、OTQD の継続的な改善を実現する。
- (4) 関係構築戦略は、ステークホルダー向けの説明会を定例化し、協働の充実をはかる。

JAQG 改善戦略ロードマップ



図－1 JAQG 戦略ロードマップ

このため、

- ・ JAQG は日本の対応策を立案し、IAQG に日本の意見を反映するための活動を積極的に展開する。
- ・ これに対応する各戦略活動を担う人材を IAQG 戦略チーム会議に積極的に派遣する。

上記の JAQG 中長期戦略を受け、平成 21 年度事業として以下の活動を行う。

1. IAQG 関連活動

(1) IAQG が主催するサプライヤー総会・評議会等への参加・課題の展開

世界の品質に関する動向の把握、日本の意見の反映およびサプライヤーからの要望の聴取等を実施する。平成 21 年度は、以下のとおり計画する。

- 1) IAQG 会議（サプライヤー総会・評議会）
 - ・フェニックス会議（H21/4/20～4/24）
 - ・ミュンヘン会議（H21/10/13～10/16 予定）
- 2) IAQG 戦略会議（IAQG 会議と同時開催含め年 4 回）
- 3) 9100(ガイダンス作成)チーム会議(IAQG 会議と同時開催含め年 2 回～4 回予定)
- 4) 9101（9111/9121 含む）D 改訂他、規格検討チーム会議（年 2 回～4 回予定）
- 5) IAQG Space Forum（IAQG 会議と同時開催含め年 2 回予定）
- 6) OPMT 会議（IAQG 会議と同時開催含め年 2～3 回予定）
- 7) 9104-1/-2/-3 検討会議（合計で 2 回～3 回予定）
- 8) SCMH 会議（IAQG 会議と同時開催含め年 2 回～4 回予定）

(2) APAQG(Asia-Pacific Aerospace Quality Group)活動

JAQG は、IAQG/APAQG の課題に対して APAQG をリードするとともに JAQG の意見を APAQG につなげる。また、そのために APAQG と連携し定期的に会議を開催する。

平成 21 年度は 8 月(場所 TBD) と平成 22 年 2 月(場所 TBD)の 2 回の開催を予定している。

2. JAQG 関連活動

(1) 運営委員会の開催

SJAC 定款及び JAQG 設置運用規則に別に定めるもののほか、JAQG の運営に関する重要事項を議決する。(H21/5/13 予定)

平成 21 年度は、JIS Q 9100 の宇宙分野を含む更なる普及や IAQG 活動の拡大に伴うリソース確保に加え、JAQG 活動の活発化/人員拡充を図るために、幹事会社を拡充して対応する。

(2) 幹事会の開催

事業計画に基づく JAQG 活動の進捗を管理するとともに、JAQG の運営に関する重要事項の審議を定期的に行う。

(3) JAQG 活動説明会の開催

好評であった前年度に引き続き、IAQG/JAQG 活動に初めて触れる方々を対象とした IAQG/JAQG 活動の基本事項についての説明会を実施する。(H21 年 9 月頃を予定)

(4) JAQG 会員及びステークホルダーへの JAQG 活動報告会の開催

JAQG 活動へのご理解とご支援をいただくため、ステークホルダー（経済産業省、国土交通省航空局、防衛省装備施設本部、宇宙航空開発機構）を含め、JAQG 会員に JAQG の活動内容の説明を実施する。尚、JIS Q 9100:2009 版の発行に伴い、規格内容の説明会も合わせて実施する。(H21 年 6 月頃を予定)

(5) ワーキンググループ会議の開催

以下のワーキンググループは前年度までの活動を引き続き展開する。

1) 規格検討ワーキンググループ

航空宇宙品質マネジメントシステム関連規格（SJAC 規格）を制定・維持する。

- ・ JIS Q 9100:2009 の発行に伴い、JAQG 活動報告会等の機会を捉えて JAQG 会員への改正点の概要説明を行うとともに、JAQG の HP を通じて改訂版の理解を助ける補足情報の提供を行う。
- ・ IAQG 9100 規格改正に伴い IAQG で作成されるガイダンス文書類の日本語版を検討/作成する。
- ・ IAQG 規格の制定/改訂活動に参加し、日本語版の SJAC 規格をタイムリーに制定する。
- ・ JRMC が検討した 9100 認証制度の運営・管理に関する日本固有規格を制定/改正する。

2) 特殊工程検討ワーキンググループ

特殊工程の国際認定制度(Nadcap)の日本国内への有益な展開を図るため、JAQG 会員メンバーの認証取得及び維持活動を支援する。

- ・ AC チェックリスト日英対訳の JAQG ウェブサイト公開を推進する。
- ・ Nadcap の理事委員会 (PRI Board of Director) へ JAQG メンバーを派遣する。

3) ウェブ検討ワーキンググループ

JAQG 入会推進と会員サービス向上のため、

- ・ JAQG 活動説明会アンケートなどを JAQG 活動の改善にフィードバックする。
- ・ JAQG メンバーウェブサイトを維持し、「JAQG ニュース」を通じて IAQG や JAQG 活動の最新情報をタイムリーに提供する。
- ・ APAQG メンバーとの情報提供/交換をスムーズにするため、APAQG メンバーウェブサイトの更なる整備を行う。

4) スペースフォーラム

宇宙業界への JIS Q 9100 及び関連規格の普及をはかるため、

- ・サプライヤーなどの JISQ9100 認証取得を推進する。
- ・IAQG スペースフォーラム活動と連携を図り、ベストプラクティスの共有化などの国内活動を推進する。

5) JAQG 運営検討ワーキンググループ

- ・H18 年度及び H19 年度に策定した IAQG の諸活動への JAQG の参画、JAQG 会計の健全化、IAQG における活動資金検討への JAQG の参画などに関する JAQG 中長期戦略計画を見直すとともに、IAQG で検討中の新 5 ヶ年計画（参考資料参照）への対応を検討するため、必要に応じて幹事会・事務局の協働による JAQG 運営検討ワーキンググループを開催する。

(6) 新規ワーキンググループ（SCMH ワーキンググループ）の設立

- ・IAQG の戦略課題の重要課題の一つとなっている SCMH(サプライチェーンマネジメントハンドブック)」活動に対応するため、SCMH ワーキンググループを設立し、国内への適用を推進するとともに IAQG で開発される規格や資料に対する意見具申を行う。

3. JRMC（航空宇宙審査登録管理委員会）による JIS Q 9100 認証制度の運営・管理

JIS Q 9100 の認証基準の整備を行うとともに認証制度の管理活動を着実に実施する。

(1) JIS Q 9100:2009 年版への移行に伴う支援

JIS Q 9100:2009 年版への移行審査が認証機関において滞りなく実施されるよう、予想される問題点を早期に取り上げ、他セクターと共に問題点を解決・ハーモナイズしながら展開できるよう調整を行い、展開していく。

(2) 認証基準の運用体制整備

SJAC9010C 及び SJAC9011B に基づく認定機関との合同監査方式の運用維持や関係機関のオーバーサイトを実施する業界監査員（OP 監査員）の育成及び力量の維持・向上のための体制整備を展開する。また、IAQG OPMT にて見直しを開始している認証基準である、IAQG9104-1/-2/-3 については、検討の進捗状況に合わせてステークホルダーからの意見も集約し、JRMC としての検討を十分に行うとともに、作業進捗に応じて SJAC9104-1/-2/-3 や SJAC9010/9011 等の制定及び改定を行う。

(3) IAQG OPMT 活動への参画

航空宇宙品質マネジメントシステム規格の審査登録制度の世界的な標準化を検討している、IAQG OPMT 会議及び 9101D 改訂検討 W/G 等のサブチーム活動等へ積極的に参画し、アジア・パシフィック・セクターの意見を反映するとともに、IAQG 会議毎に行われるオーバーサイトにて他セクターの認証制度評価などを実施する。

(4) 認定機関及び認証機関の定期サーベイランスの実施

SJAC9010C に基づき、認定機関（日本適合性認定協会：JAB）に対する定期サーベイランスの実施及び合同審査チームメンバーとして認定機関による品質マネジメントシステム認証機関などの定期サーベイランス（事務所審査及び組織審査）に参加し、認定機関及び認証機関が SJAC9010C の要求事項を遵守していることを確認する。

(5) 航空宇宙産業経験審査員の登録/更新申請者に対する評価の追認

SJAC9010C の規定に基づき、航空宇宙産業経験審査員の登録/更新申請者についてマネジメントシステム審査員評価登録センター（JRCA）による評価結果を SJAC9010C に従い確認する。

(6) 航空宇宙審査登録管理委員会(JRMC)会議の開催

JIS Q 9100 の認証基準である、SJAC9104、SJAC9010、SJAC9011 等の基準改定の検討、IAQG OPMT 会議の結果報告や認証制度の運用上の問題点等を討議するため、必要に応じ各関係機関にも参加を要請し、JRMC 会議を開催する。
(メンバー会議：年 10 回、拡大会議：年 2 回を予定)

(7) ワークショップの開催

スキーム共通事項に関しては、テーマを絞ってワークショップを開催し、スキームの相互理解や各種意見の集約を行い、改善活動を行っていく。

* 平成 21 年度 JAQG 活動主要項目と日程を次頁に示す。

平成21年度 JAQG主要活動項目と日程

平成21年5月13日

主 要 項 目		平成21年度												平成22年度		備 考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
I JAQG 関連活動	1. 総会・協議会への参画 JAQG会議 IAQG SWG会議 SCMH会議 9100ガイダンス会議 9101会議 OPMT会議 9104-1/-2/-3検討会議	▼IAQGフェニックス(4/20~4/25)		▽9101会議 ▽OPMT会議	▽SWG会議 ▽SCMH会議 ▽OPMT会議	▽9104-1検討会議	▽9104-2/-3検討会議	▽IAQGミューベン会議(10/13~10/16)		▽SWG会議 ▽SCMH会議						
		▼JIS Q 9100:2009発行(4/20)														
		JIS Q 9100ガイダンス文書検討(IAQG活動と連携)														
		9101改正検討作業(IAQG活動と連携)														
		9104-1作成検討作業(IAQG活動と連携)														
II JAQG 関連活動	2. 規格類の検討・制定															
III JIS Q 9100 審査登録制度 の運営管理 (JRMIC)	3. APAQG(Asia Pacific Aerospace Quality Group) 会議の開催															
IV JIS Q 9100 審査登録制度 の運営管理 (JRMIC)	1. 運営委員会の開催		▽運営委員会													
	2. 幹事会の開催	▼(4/10)	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽			
	3. ワーキング・グループ会議の 開催	◆フェニックス						◇ミューベン								
	4. JAQGメンバーへの 活動報告会等の開催			▽ JAQG活動報告会			▽ JAQG活動 (基本)説明会									
	5. ウェブサイトの維持・管理			ウェブサイトの維持・管理			ウェブサイトの維持・管理									
V JIS Q 9100 審査登録制度 の運営管理 (JRMIC)	1. 審査登録制度の整備	▼拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議	▽拡大JRMIC会議			
		▼JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議	▽JRMIC メンバー会議			
	2. 認定機関、審査登録機関 他セクター等の監査等	▼定期サーベイランス(OB)	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽			
	3. 航空宇宙審査員の評価		▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽			

検討/制定予定規格

- ・JIS Q 9100:2009 品質マネジメントシステム—航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項
- ・SJAC9101D「航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する品質マネジメントシステムの審査(仮称)」
- ・SJAC9104—「航空、宇宙及び防衛分野の品質マネジメントシステムの認証プログラムに関する要求事項(仮称)」
- ・SJAC9107「航空宇宙業界へのダイレクトデリバリー機能における指針」
- ・SJAC9114「航空宇宙業界へのダイレクトシップ機能における指針」
- ・SJAC9131「航空宇宙 不適合報告書」
- ・SJAC9132「部品マージングに対するデータマトリックスコード(2D)品質要求事項」
- ・SJAC9134「サブプライチエーンリスタママネジメントガイドライン(仮称)」
- ・9115「品質マネジメントシステム—航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項—ソフトウェアに対する要求事項(仮称)」
- ・9136「根本原因分析及び問題解決(仮称)」
- ・SJAC9101D JIS Q 9100品質マネジメントシステムの認定・審査登録に対する要求事項」

◇: PRI Board of Director等
ワーキンググループ
・規格検討
・特殊工程検討
・ウェブ検討
・JAQG会計健全化検討
・JAQGSベースフォーラム

航空宇宙品質センター（J A Q G）設置運用規則

第一章 総則

（設置）

第1条 社団法人日本航空宇宙工業会（以下「本会」という。）に航空宇宙品質センター（Japanese Aerospace Quality Group。以下「J A Q G」という。）を置く。

（目的）

第2条 J A Q Gは、International Aerospace Quality Group（以下「I A Q G」という。）の品質保証に関する制度などに対し、わが国航空宇宙産業界の要求を反映するとともに、国内において J I S Q 9 1 0 0 の認証制度の確立、運用の監督及び品質保証制度全般の標準化の促進を図り、もってわが国航空宇宙産業界の品質の向上、業務の効率化及びコストの引き下げを図ることを目的とする。

（事業）

第3条 J A Q Gは、前条の目的を達成するために、次の事業を実施する。

- （1）I A Q Gに対する J A Q Gの意向の提案、議決事項への投票
- （2）I A Q Gで示された検討事項の J A Q Gでの審議、回答
- （3）I A Q G決定事項の国内での実施の促進
- （4）世界の航空宇宙業界の品質保証に関する情報の入手
- （5）航空宇宙認定制度における認定機関、審査登録機関、審査員評価登録機関及び審査員研修機関の監督
- （6）審査登録機関による審査結果等の IAQG-OASIS（OASIS : Online Aerospace Supplier Information System）データベースへの登録
- （7）新規基準等の制定、発行時の関係官庁、機関との調整
- （8）APAQG（Asia Pacific Aerospace Quality Group）との連携
- （9）前各号に掲げるもののほか、J A Q Gの目的達成に必要な事業

第二章 メンバー

（メンバー）

第4条 J A Q Gに入会を希望するものは、メンバーとして登録しなければならない。

2 前項の登録は、次の区分により行うものとする。

- （1） 会員メンバー 本会の会員のうち、J A Q Gの目的に賛同し、その事業に協力しようとするもの
- （2） 協賛メンバー （1）及び（3）以外で、J A Q Gの目的に賛同し、その事業に協力しようとするもの
- （3） 関係機関メンバー J A Q Gの目的に賛同し、その事業に協力しようとする認定機関、審査登録機関、審査員評価登録機関及び審査員研修機関等

(登録等)

第5条 J A Q Gにメンバーとして登録しようとするものは、別に定める登録申込書をJ A Q G事務局に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

2 J A Q Gの登録を抹消しようとするものは、別に定める登録抹消申込書をJ A Q G事務局に提出しなければならない。

(メンバーの義務)

第6条 メンバーは、別に定める会費を納入しなければならない。

2 メンバーは、J A Q Gが別に定める会費などに関する規定を守らなければならない。

第三章 J A Q Gの組織

(組織)

第7条 J A Q Gに、事業の円滑な運営を図るため、次の組織をおく。

- (1) J A Q G運営委員会（以下「運営委員会」という。）
- (2) 幹事会及びワーキンググループ
- (3) 航空宇宙審査登録管理委員会（Japan Registration Management Committee。以下「J R M C」という）
- (4) J A Q G事務局

第1節 運営委員会

(設置)

第8条 J A Q Gに、運営委員会をおく。

- 2 運営委員会は、会員メンバー、協賛メンバー及び関係機関メンバーを持って構成する。
- 3 運営委員会の長は、運営委員長とし、運営委員会において、会員メンバーのうちから選任する。
- 4 協賛メンバー及び関係機関メンバーは、運営委員会に出席して意見を述べることができる。ただし、議決に加わることはできない。

(任務)

第9条 運営委員会は、本会の定款及び本規則に別に定めるもののほか、J A Q Gの運営に関する重要事項を議決する。

- 2 運営委員会は、次の各号に掲げる事項、その他本会の定款に基づき総会若しくは理事会又は会長の権能とされている事項であってJ A Q Gの運営に係る重要事項について審議し、総会若しくは理事会又は会長に対し、その結果を報告する。
 - (1) J A Q Gに係る事業計画案及び収支予算案
 - (2) J A Q Gに係る事業報告案及び収支決算案

(会議の開催等)

第10条 運営委員会は、毎事業年度終了後原則として2月以内に開催する。ただし、運営委員長が必要と認めたとき臨時に運営委員会を開催することができる。

- 2 運営委員会は、運営委員長が召集する。運営委員会の議長は、運営委員長がこれにあたる。
- 3 運営委員会は、会員メンバーの2分の1以上の出席をもって成立する。書面又は代理人をもって表決権を行使する会員メンバーは、出席したものと見なす。
- 4 運営委員会の議事は、出席会員メンバーの過半数の同意でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

第2節 幹事会及びワーキンググループ

(構成)

第11条 幹事会は、運営委員会において選任された会員メンバー及びJ A Q G事務局メンバーをもって構成する。

- 2 幹事長は、幹事会構成員の互選により選任する。任期は1年とし、再任を妨げない。

(任務)

第12条 幹事会は、この規則に別に定めるもののほか、次の事項を整理し、又は運営委員会の議決を経て幹事会に授権された事項について議決する。

- (1) 事業計画案、収支計画案（会費案を含む。）など運営委員会に付議すべき事項
- (2) その他J A Q Gの運営に関する重要事項

- 2 幹事会は、ワーキンググループを統括する。

(会議の開催等)

第13条 幹事会は、幹事長が召集する。幹事会の議長は、幹事長がこれにあたる。

(ワーキンググループの設置)

第14条 幹事会は、特定のテーマについて検討を行うため、ワーキンググループを組織することができる。

- 2 ワーキンググループは、幹事会が委嘱する者をもって構成する。
- 3 ワーキンググループの主査は、ワーキンググループ構成員の互選により選任する。任期は一年とし、再任を妨げない。

(任務)

第15条 ワーキンググループは、品質保証に関する標準類の検討その他の付託されたテーマについて検討を行い、幹事会に対し、その結果を提出する。

- 2 ワーキンググループは、主査が召集する。ワーキンググループの議長は、主査がこれにあたる。

第3節 JRMC

(構成)

- 第16条 JRMC は、幹事会により指名された幹事会を代表するもの3名以上で構成され、個々のメンバーは JRMC の議決にあたり投票権を有する。JRMC のメンバーの任期は1年とし、再任を妨げない。
- 2 JRMC は、必要に応じて、JIS Q 9100 の認定機関、審査登録機関、審査員評価登録機関及び審査員研修機関に対して、助言を与える立場で JRMC 会議への出席を求める。
 - 3 議長は、指名されたメンバーの中から選任し、JAQG 幹事会の議決に基づき JAQG 幹事長が任命する。任期は1年間とし、再任を妨げない。

(任務)

第17条 JRMC は、JAQG 幹事会の承認に基づき次の業務を実施する。

- (1) 認定機関の承認及び定期確認
- (2) 審査登録機関の能力確認及び定期確認
- (3) 審査員評価登録機関の能力確認及び定期確認
- (4) 審査員研修機関の能力確認及び定期確認
- (5) 審査員の資格認定の追認
- (6) IAQG オーバーサイトチーム活動への参画
- (7) JAQG 幹事会への状況報告
- (8) その他 JIS Q 9100 に対する認定制度の運営上重要な事項

(業務の実施)

- 第18条 JRMC は、前条各号に掲げる業務の一部を、幹事会を構成する会員メンバーの役員又は職員のうち当該業務を適切に実施すると判断し委嘱したもの及び JAQG 事務局に実施させることが出来る。
- 2 前項の委嘱は JRMC 議長が行う。
 - 3 前条の業務を行う JRMC のメンバー及び委嘱されたものは、身分を証する書面を携帯し、関係者からの請求があった場合は、これを示すものとする。
 - 4 前条の事務に伴い発生する経費の負担については、別に定めるものとする。

第4節 JAQG事務局

第19条 JAQG に、JAQG 事務局をおく。

- 2 JAQG 事務局は、運営委員会、幹事会及び JRMC の庶務、メンバーの登録、会費の請求及び受領、審査登録機関による審査結果等の IAQG-OASIS データベースへの登録、その他 JAQG の運営上必要な事務を処理する。

第四章 資産及び会計

(特別会計の設置)

第20条 J A Q Gの会計は、本会の他の経理と区分して整理する。

(資産及び経費の支弁)

第21条 J A Q Gの資産は、会費、寄付金、審査結果等のデータベースへの登録料及びその他収入をもって構成する。

2 J A Q Gの経費は、資産を持って支弁する。

(会計年度及び決算)

第22条 J A Q Gの会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 J A Q Gの事業報告案、収支決算書案及び財産目録案は、運営委員長が毎事業年度終了後遅滞なくこれを作成し、本会の監事の監査を受けた後、当該事業年度終了後原則として2月以内に運営委員会の調査審議を得なければならない。

第五章 補則

(本会他事業との関連)

第23条 J A Q Gの事業は、本会の他の事業と密接な関連のもとに行われるものとする。

2 J A Q G事務局における事務処理は、原則として、本会の他の事業の事務処理と同様の基準及び方法で進めるものとする。

(運営規定)

第24条 この規則に定めるもののほか、J A Q Gの運営に関して必要な事項は、運営委員会（運営委員会の議決を経て幹事会に授権された事項については、幹事会）が別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行前に本会事務局に対し登録申込書を提出し同事務局の承認を得たものは、第5条第1項の規定にかかわらず、前項に規定する日に、第4条第2項の区分に従いJ A Q Gの会員メンバー又は協賛メンバーになったものとする。
- 3 第20条の規定は、本会総会の議決を経て適用する。
- 4 この改正は、平成15年4月1日から施行する。
- 5 この改正は、平成16年7月1日から施行する。

(目的)

第1条 この細則は、「航空宇宙品質センター(JAQG)設置運用規則」第6条に規定する会費について定めることを目的とする。

(会員メンバーの会費)

第2条 会員メンバーの会費(年額)の算定は、前年度末の SJAC 会費(月額)の資本金割額と航空宇宙関係売上高割額を合算した金額に応じて、下表の会費区分によるものとする。

上記の計算結果得られた額	会費区分
IAQG 投票メンバー	700,000 円
450,000 円以上	360,000 円
325,000 円以上 450,000 円未満	300,000 円
200,000 円以上 325,000 円未満	240,000 円
50,000 円以上 200,000 円未満	比例配分値
50,000 円未満	50,000 円

(協賛メンバー及び関係機関メンバーの会費)

第3条 協賛メンバーの会費の年額は一律 50,000 円とする。

2 関係機関メンバーの会費の年額は下表の会費区分によるものとする。

機関区分	会費区分
JIS Q 9100 審査登録機関	100,000 円
上記以外	50,000 円

(会費の承認)

第4条 第2条及び第3条に定める会費は、年度当初の運営委員会において承認する。

(途中入会及び退会の扱い)

第5条 年度途中の入会及び退会の場合においても、第4条で承認された会費とし、月割計算は行わない。

(会費の納入)

第6条 会費は原則として、各年度6月末までに一括納入しなければならない。ただし、途中入会の場合、入会を認められた日から2ヶ月以内一括納入しなければならない。

附則

1. この細則は、平成13年6月1日から実施する。
2. この改正は、平成16年7月1日から施行する。
3. この改正は、平成17年6月7日から施行する。
4. この改正は、平成18年4月1日から施行する。

IAQG-OASIS データベースへの登録料等についての細則

JAQG 運営委員会

(目的)

第1条 この細則は、航空宇宙品質センター（JAQG）設置運用規則第3条（6）に掲げる審査登録機関による審査結果等を IAQG-OASIS データベースに登録するための登録料等について定めることを目的とする。

(登録料)

第2条 IAQG-OASIS データベースに審査結果に登録するための登録料は、下表左欄の会員区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる金額とする。

会員区分	毎回の登録料
会員メンバー及び協賛メンバー	初回登録 65,000 円
	初回登録後の更新審査時 52,000 円
	サーベイランス 無料
上記以外のもの	初回登録 115,000 円
	初回登録後の更新審査時 102,000 円
	サーベイランス(1年周期) 50,000 円
	サーベイランス(半年周期) 25,000 円

(納入等)

第3条 JAQG は、審査登録機関に、上記登録料を請求する。

- 2 JAQG は、入金を確認後、速やかに審査結果等を IAQG-OASIS データベースに登録する。

附則

1. この規程は、平成16年7月1日より施行する。
2. この改正は、平成19年7月1日より施行する。

JAQG 運営委員会 運営細則

(目的)

第1条 この細則は「航空宇宙品質センター（JAQG）設置運用規則」第三章第1節に規定する運営委員会の細部について定めることを目的とする。

(構成員)

第2条 運営委員会は、航空宇宙の品質保証に携わっている部門の代表から構成する。

(運営委員長の選任)

第3条 運営委員長は、年度当初の運営委員会で選出し、任期は1年間とする。
ただし、再任は妨げない。

附則

1. この細則は、平成13年6月1日から実施する。
2. この改正は、平成15年4月1日から施行する。

JAQG会員専用ウェブサイト 新規ユーザーガイド



ユーザー登録の流れ

1. アカウントの取得

- ①ウェブサイト(Register now)からユーザ名、Eメールアドレスを送信して下さい
 - ②リアルタイムで登録確認メールがEメールアドレス宛に自動送信されます
 - ③登録確認メールに記載のURLをクリックして、ユーザ名・パスワードでログインし、
User Menu / アカウント編集で会員情報を登録し、アカウント取得を完了して下さい(会員情報は必ず登録してください)
- 以降、登録ユーザ名・パスワードでログインするとDownloadなどアカウント取得者専用サービス*をご利用いただけます

*: 説明会資料、JAQG規則類など

2. ユーザー登録

ご登録頂いた会員情報に基づき閲覧権限を設定します(2週間以内を目標)

→ 以後、登録したユーザ名・パスワードでログインして会員専用コンテンツ(Membership Onlyなど)をご利用下さい

※ お急ぎの場合は、ウェブメールで会社名、氏名および電話番号をお知らせ下さい

登録に関するFAQ; Main Menu / FAQ / JAQGウェブサイト

ウェブは予告なく更新しています。ウェブ画面が現在の画面と異なる場合があります
ご不明の点はお問い合わせ下さい(JAQG事務局 TEL03-3585-1481)

As of 090715 1

基本操作 <http://sjac-jaqq.kir.jp/>



リセット

パブリックサイトへ
JAQG 航空宇宙品質センター
Japan Aerospace Quality Group

Main Menu
[ホーム\(Home\)](#)
[FAQ ← よくある質問と回答](#)
[Contact ← 各種お問合せ](#)
[APAQG](#)
会員専用ページ(Member only)
 Username: **ログイン**
 Password:

[Lost Password? ← パスワード紛失](#)
[Register now ← ①新規登録\(アカウント取得\)](#)

 高度な検索

JAQGの目的
 JAQGは、品質の着しい改善とコストの削減を実現するため世界の航空宇宙業界と共に活動を進める
 サプライチェーン全社に渡って品質向上につながる施策の実施
 サプライチェーンへの要求事項の標準化による無駄の排除
 (SJAC-JAQQ)
新JAQG会員専用ウェブサイト
 JAQG会員の皆様の登録をお待ちしています
 登録に関するFAQ; メインメニュー/FAQ/JAQQウェブサイト

SJACサイトへ

← クリックすると4ページの画面になる

社団法人 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター(JAQQ) © 2001-2008 SJAC-JAQQ

カテゴリ

- JAQGウェブサイト
 - ？ JAQGサイトへのリンクについて
 - ？ ユーザー登録の仕組みを教えてください
 - ？ JAQG会員専用ページ登録の人数制限はありますか
 - ？ [ログイン(1)] パスワードを思い出せません
 - ？ [ログイン(2)] メールアドレスは既に使用されています
 - ？ [ログイン(3)] ログインできません
 - ？ [登録(1)] ユーザー登録できません
 - ？ [登録(2)] 登録できませんでした
 - ？ [お問い合わせ(1)] メールフォームの認証コードとは何ですか
 - ？ [お問い合わせ(2)] ウェブメールを送信できません
 - ？ [登録変更(1)] 会社名が変わりました
 - ？ [登録変更(2)] Eメールアドレスが変わりました
 - ？ [閲覧(1)] JAQGメンバー専用ページの閲覧ができません
- JAQG入会
 - ？ JAQG規則類を教えてください
 - ？ JAQG会費について教えてください
- OASISサプライヤー管理者
 - ？ サプライヤー管理者の役割
 - ？ どのような人物が管理者に相応しいのですか。
 - ？ 管理者を登録する目的は？

3

① 新規登録(アカウント取得)

ウェブサイトからユーザ名、Eメールアドレスを送信して下さい

User Registration / ユーザ登録	
Username / ユーザ名	testmember ユーザ名・Eメール必須
Email / メールアドレス	test@aaa.co.jp Eメールは非公開としてください ☐ Allow other users to view my email address このメールアドレスを公開する
Website / ホームページ	
Time Zone / タイムゾーン	(GMT+9:00) Tokyo, Seoul, Osaka, Sapporo, Yakutsk, 東京, ソウル, 大阪, 札幌
Password / パスワード	 英数字 小文字 5字以上
Verify Password / パスワード確認	 同じパスワードを2回入力
Receive occasional email notices from administrators and moderators? 当サイトの新着情報などをメールで受け取る	☒ Yes ☐ No
Disclaimer / 免責	(Please see the lower half part for the APAQG Web user.) 本規約は、JAQGウェブサイトにより提供されるコンテンツの利用条件を定めるものです。以下の利用条件をよくお読みになり、これに同意される場合にのみご登録いただきますようお願いいたします。 当サイトを利用するにあたり、以下に該当する場合はその同意を私に送付する必要があります。 ☒ I agree to the above terms and conditions. この送信ボタンをクリックし、次に出てくる確認画面の送信ボタンをクリックして送信して下さい。 (この送信ボタンだけでは送信されませんので注意して下さい!!) JAQGウェブサイトのアカウント取得は、免責事項に同意していただく必要があります
Submit / 送信	

4

② 新規登録(登録確認メール)

登録確認メールが登録したEメールアドレス宛に自動送信されます

From: JAQG <sjac-jaqg@jaqg.jp>
To: test@aaa.co.jp
Subject: User activation key for test_member / 承認キーです

test_memberさん、こんにちは

JAQGにおけるユーザ登録用メールアドレスとしてあなたのメールアドレス(test@aaa.co.jp)が使用されました。もし JAQGでのユーザ登録に覚えがない場合はこのメールを破棄してください。

JAQGでのユーザ登録を完了するには下記のリンクをクリックして登録の承認を行ってください。

<http://sjac-jaqg.kir.jp/user.php?op=actv&id=459&actkey=d13c0105>

JAQG (<http://sjac-jaqg.kir.jp/>)
Webmaster
sjac-jaqg@jaqg.jp

登録確認メールに記載の
このURLをクリックして下さい

5

③ 新規登録(ユーザー登録) (1/3)

登録確認メール記載のURLをクリックすると以下のログイン画面に導かれます。登録したユーザ名・パスワードでログインして下さい。



JAQG

航空宇宙品質センター

Japan Aerospace Quality Group

Main Menu

- ホーム(Home)
- FAQ
- Contact
- APAQG

Search

検索

高度な検索

User Login

Username:

Password:

Not registered? Click here.
今すぐ登録しませんか?

Lost your Password? / パスワードを紛失されましたか?

No problem. Simply enter the e-mail address we have on file for your account.

ご心配なく。まずはあなたが登録に使用したメールアドレスを入力し、ボタンをクリックしてください。パスワード取得用のリンクが記載されたメールがあなたの登録メールアドレス宛に送られます。

Your Email / 登録メールアドレス:

③ 新規登録(ユーザー登録) (2/3)

User Menu / アカウント編集 で会員情報を登録して下さい

Edit Profile / プロフィールの編集	
Username / ユーザ名	test_member
Real Name / 本名	航空太郎 必須
Email / メールアドレス	test@aaa.co.jp 非公開 ☐ Allow other users to view my email address このメールアドレスを公開する
Website / ホームページ	
Time Zone / タイムゾーン	(GMT+9:00) Tokyo, Seoul, Osaka, Sapporo, Yakutsk, 東京, ソウル, 大阪, 札幌
ICQ	郵便番号
AIM	電話番号
YIM	FAX番号
MSN	携帯番号
Location / 居住地	住所
Occupation / 会社名	[会社名]と[メンバー区分]をお知らせください 必須
Interest / 趣味	所属/職位

 以外は任意です
アカウント編集で変更・削除
できます

7

③ 新規登録(ユーザー登録) (3/3)

Signature / 署名	 大きさ フォント 色 B <i>I</i> <u>U</u> 追加 航空太郎 ☺ ☹ 😊 😞 😠 😡 😢 😣 😤 😥 😦 😧 😨 😩 😪 😫 😬 😭 😮 😯 😰 😱 😲 😳 😴 😵 😶 😷 😸 😹 😺 😻 😼 😽 😾 😿 😺 😻 😼 😽 😾 😿 ☐ Always attach my signature / 投稿に署名を必ず追加する
Comments Display Mode / コメント表示モード	ネスト表示
Comments Sort Order / コメントの並び順	新しいものから
イベント更新通知メッセージの受取方法	プライベート・メッセージ
イベント通知のタイミング	イベント更新時に必ず通知する
Extra Info / その他	 以外は任意です アカウント編集で変更・削除 できます
Password / パスワード (type a new password twice to change it) (パスワードを変更する場合のみ記入してください)	
Store my user name in a cookie for 1 year ユーザ名を1年間クッキーに保存する	☐ Yes ☒ No
Receive occasional email notices from administrators and moderators? 当サイトの新着情報などを メールで受け取る	☒ Yes ☐ No
Save Changes / 変更を保存 以上でユーザーの作業は終了	

本名、メールアドレス、会社名および
メンバー区分を確認して変更を保存

8

ログイン後のトップページ

1. アカウント取得時

Main Menu

- ホーム (Home)
- FAQ
- Contact
- APAQG
- Download**
- Bulletin Board

User Menu

- アカウント情報**
- アカウント編集**
- イベント通知機能**
- ログアウト**
- 受信箱**

Search

高度な検索

2. メンバー登録後

Main Menu

- ホーム (Home)
- FAQ
- SiteMap**
- Membership Only
- Contact
- APAQG
- Download
- Bulletin Board

User Menu

- アカウント情報
- アカウント編集
- イベント通知機能
- ログアウト
- 受信箱

Search

高度な検索

会員専用コンテンツ

- Nadcap について (277)
- H19 JAQQ活動説明会 アジェンダ
- 9100QMS認証制度について (200)
- IAQG/JAQQ活動説明会 (196)
- IAQG 9100:2008(JIS Q 9100:2008) 特殊工程検討WGについて (186)
- 平成20年度IAQG/JAQQ活動説明
- IAQG/JAQQ活動について (149)
- 平成20年度IAQG/JAQQ活動説明
- JISQ9100 2008年改訂の作業状況

検索対象が広がります

9

会員専用コンテンツ(メンバー登録後)

SiteMapからアクセス権を付与されたコンテンツに**直接移動可能**

SiteMap

サイトマップです

例えば、Nadcap AC日英対訳版を見るときは、ここをクリック

- FAQ
 - JAQQウェブサイト
 - JAQQ入会
 - OASISサプライヤー管理者
 - OASIS登録料
 - OASISデータベース
 - IAQG・JAQQ活動
 - スペースフォーラム
 - 9100シリーズ規格
 - 特殊工程(Nadcap)
- Membership Only
 - JAQQ Member
 - STAFF
 - APAQG Website
 - Nadcap ACS J-E
 - e解説書
- Contact
 - 専用ウェブ
 - JAQQ入会申し込み
 - 購入申込書 -JISQ9110解釈-
 - 購入申込書 -不適合指摘事例-
 - JAQQに関するお問合せ
- APAQG
 - 平成19年度公開資料
 - 平成20年度公開資料
 - 平成21年度公開資料
 - 登録する
 - 人気ダウンロード
 - 高評価ダウンロード
 - ファイル一覧
- Download
 - 平成19年度公開資料
 - 平成20年度公開資料
 - 平成21年度公開資料
 - 登録する
 - 人気ダウンロード
 - 高評価ダウンロード
 - ファイル一覧
- Bulletin Board
 - 掲示板
 - JAQQメンバー 掲示板
 - STAFF 掲示板
 - 掲示板
 - JAQQメンバー 掲示板
 - STAFF 掲示板

10

会員専用コンテンツ(メンバー登録後) Membership Only トップページ



JAQ G 航空宇宙品質センター
Japan Aerospace Quality Group

Main Menu

- ホーム (Home)
- FAQ
- SiteMap
- Membership Only**
- 記事を投稿する
- Contact
- APAQG
- Download
- Bulletin Board

User Menu

- アカウント情報
- アカウント編集
- イベント通知機能
- ログアウト
- 受信箱

Search

検索

高度な検索

Recent items (Detail)

最新の投稿記事一覧：記事名のクリックでその記事に移動できます

記事	カテゴリ	投稿者	掲載日
2009年7月IAQG/JAQQ活動説明会のお知らせ	JAQG活動報告会	webmaster	2009-6-6
H21年度JAQG運営委員会(議事録 & 議案等)	JAQG運営委員会	webmaster	2009-5-26
第57回JAQG幹事会議事録(平成21年4月10日)	JAQG幹事会議事録	kanno	2009-5-14
H21年度JAQG運営委員会(開催案内)	JAQG運営委員会	webmaster	2009-4-17
第56回JAQG幹事会議事録(平成21年3月24日)	JAQG幹事会議事録	kanno	2009-4-15

カテゴリ一覧

カテゴリ一覧：カテゴリ名のクリックでそのカテゴリに移動できます

カテゴリの一覧です。カテゴリを選択すると、記事リストを表示します。

カテゴリ	記事	最新の記事
JAQG Member I. JAQGの目的 JAQGIは、品質の著しい改善とコストの削減を実現するため世界の航空宇宙業界と共に活動を進める。 (1) サプライチェーン全船に渡って品質向上につながる施策の実施 (2) サプライチェーンへの要求事項の標準化による無駄の排除 II. JAQG戦略の具体的実施事項 4つの改善戦略と関係構築戦略を中心に展開する。 (1) 改善戦略「規格要求」は航空宇宙品質マネジメントシステム関連規格の充実と普及を推進する。	1	JAQG設置運用規則 他

11

会員専用コンテンツ(メンバー登録後) Download トップページ



カテゴリ選択

カテゴリ名のクリックでそのカテゴリに移動できます

当サイトのデータベースには 34 件のファイルがあります

[PDF] [RSS] [ATOM] [一覧]

平成19年度公開資料 (0) [RSS] [一覧]

IAQG/JAQQ活動説明会資料

(1) 田 [RSS] [一覧]

H19JAQG活動報告会(12月4-5日) (8) [RSS] [一覧] (Total:24)

平成20年度公開資料 (5) [RSS] [一覧]

H20年7月IAQG/JAQQ説明会 (3) [RSS] [一覧] (Total:8)

平成21年度公開資料 (1) [RSS] [一覧]

Membership Only [一覧]

「Membership Only」にアクセスできるようになります

「一覧」のクリックでカテゴリ内のファイルリストが表示されます

新着ダウンロード

カテゴリ Membership Only

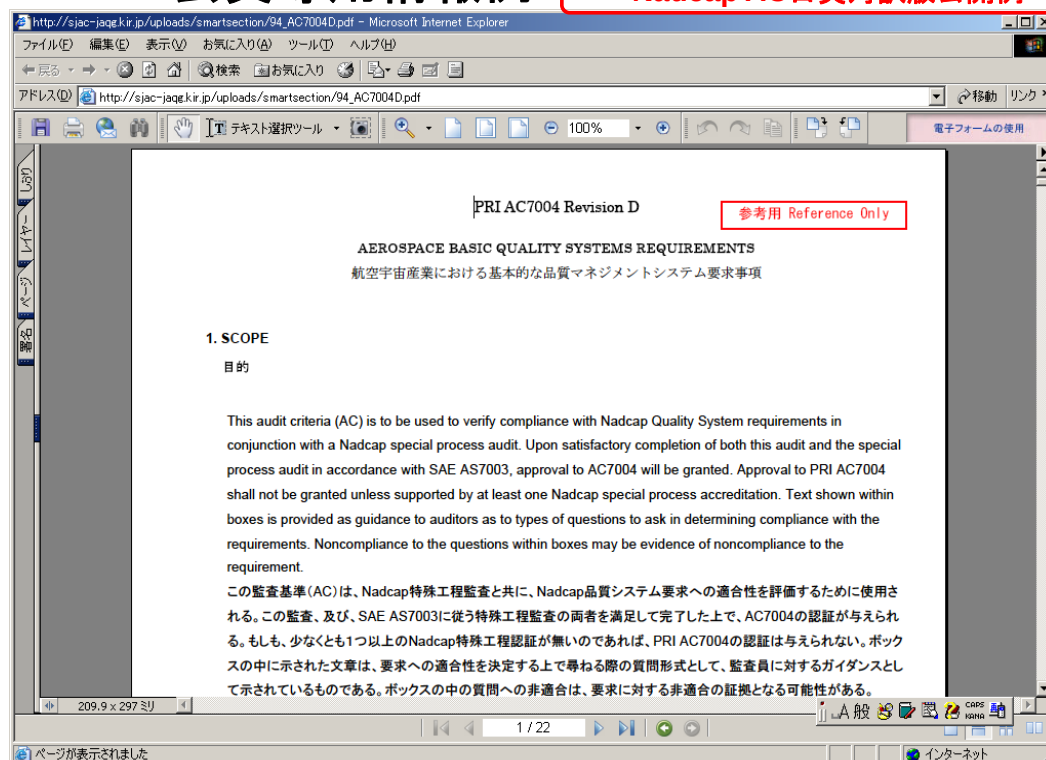
マイリンクに追加

会員専用コンテンツ(メンバー登録後)



会員専用情報例

Nadcap AC日英対訳版公開例



13

検索例 (Search/高度な検索)



検索	
キーワード	SJAC9101
検索の種類	すべて (AND検索) ▼
検索対象のモジュール	☒ FAQ ☒ Membership Only ☒ ダウンロード ☒ 掲示板
検索のルール	文字数が 5 文字未満のキーワードは無視されます。
検索	

FAQ

- ? SJAC9101チェックリストの電子データを入力できますか
(2007-8-28 11:16:10)
- ? 9101の最新版を教えてください
(2007-6-12 15:57:43)
- ? JAQGIはチェックリストを内部監査の適用規格として要求していますか
(2007-6-12 15:55:53)
- ? SJAC9101チェックリストの改訂予定について教えてください
(2007-6-12 15:54:49)

Membership Only

検索対象が広がります

14

各種お問合せ(ウェブメール)

Main Menu/Contact :

「JAQG会員専用ウェブ」以外、アカウントの有無に関係なく利用可能

[JAQG] お問い合わせは、このフォームを御利用ください。

メンバー登録をお急ぎの場合(アカウント取得後)

JAQG会員専用ウェブ	JAQG会員専用ウェブのアカウントを取得された方で、JAQG会員専用コンテンツを早く閲覧したい方はこのフォームをご利用ください。なお、アカウント取得は、ログイン前の本ホームページの「Register now」より行ってください。
JAQG入会申し込み	JAQG入会お申し込みはこのフォームをお使いください。
購入申込書 - JISQ9100解釈 -	JIS Q 9001:2000の解釈 - 航空宇宙産業・防衛産業規格(JIS Q 9100:2004)を事例として -
購入申込書 - 不適合指摘事例 -	JIS Q 9001:2000の不適合指摘事例 - 航空宇宙産業・防衛産業規格(JIS Q 9100:2004)を事例として -
JAQGに関するお問合せ	お問合せのフォームです。

15

ウェブメール(JAQG会員専用ウェブ)

アカウント取得後のメンバー登録をお急ぎの場合に利用

JAQG会員専用コンテンツを早く閲覧したい皆様はこのフォームをご利用ください

ユーザ名:[アカウント取得時に登録したユーザ名を記載してください]

氏 名:[漢字で氏名を記載してください]

会社名:[会員登録している会社名を記載してください]

電話番号:[ご本人様を確認できる電話番号を記載してください]

メールフォーム : 専用ウェブ

お名前	test_member
メールアドレス	test@aaa.co.jp
会員専用ウェブ ユーザ登録	JAQG会員専用ウェブサイトのアカウントを取得しました。 会員専用ウェブサイトへのユーザ登録をお願いします。 ユーザ名 : test_member 氏名 : 航空太郎 会社名 : サンプル(株) 電話番号 : XX-XXX-XXXX よろしくをお願いします。 以上
認証コード	DvevE  認証コードです ⇒ 確認のため認証コードを入力してください。
送信	

16

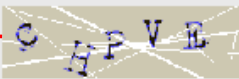
ウェブメール(お問合せ)

お問合せのフォームです。

アカウントの有無に関係なく利用可能

JAQGIに関する様々なお問合せはこちらからどうぞ。

お名前、メールアドレス、申込書及び認証コード(グレイ画像中の英数5文字)を入力してから送信をお願いします。

メールフォーム : JAQGIに関するお問合せ	
お名前	航空太郎
メールアドレス	testmember@aaa.co.jp
テキストエリア	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX YYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYY ZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ
認証コード	cHPVE  認証コードです ⇒ 確認のため認証コードを入力してください。
送信	

17

